

清武町埋蔵文化財調査報告書 第31集

OKA
岡第4遺跡

民間開発に伴う埋蔵文化財調査報告書

2010

清武町教育委員会



岡第4遺跡全景



SC-20・21 (縄文時代早期の陷し穴と炉穴)



SI-22・24・25 (縄文時代早期の集石遺構)



調査区東側主要遺構群（縄文時代前期以降の遺構）



SC-14（縄文時代中期の土坑）



S I-6 (縄文時代中期以降の集石遺構)



SA-3 出土土師器「杯」と「椀」

序

本書は清武町岡地区で民間開発に伴い平成21年度に発掘調査の行われた岡第4遺跡の調査報告書です。

岡第4遺跡では約二万年前の旧石器時代から中世・近世までの幅広い時期の人々の生活を見ることができました。中でも縄文時代中期の土坑類は町内において調査事例が少なく、貴重な資料を得ることができました。

本報告書が当地域の歴史の解明に役立つとともに学校教育又は生涯学習の資料として活用され、人類共有の財産である文化財を保護する意識の向上に向かえば幸いです。

本書の遺跡の発掘調査は夏の猛暑の中で開始されました。作業に従事していただいた作業員の皆様ならびに、多大なご協力を頂きました岡地区の皆様にご心よりお礼申し上げます。

平成22年2月

清武町教育委員会

教育長 神川 孝志

例 言

1. 本書は清武町教育委員会が平成21年度に実施した岡第4遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は平成21年8月7日～10月30日の期間に実施した。また整理作業は平成21年10月1日～平成22年2月26日の期間に実施した。

3. 調査組織

調査主体 清武町教育委員会

教 育 長

神川 孝志

教 育 次 長

児玉 秀樹

生涯学習課長

日高 貞幸

生涯学習課長補佐兼文化振興係長

川越 健

文化振興課 主査

井田 篤

主任

秋成 雅博（調査・報告書担当）

嘱託

今村 結記（調査担当）

4. 現場における測量・実測作業は秋成雅博・今村結記が行い、発掘作業員が補助をした。また、調査区及び等高線の測量については(有)ジパングサーベイに委託した。

発掘作業員…

(50音順)

5. 遺物の整理並びに報告書作成業務については清武町埋蔵文化財センターで行った。

整理作業員…

(50音順)

6. 本書で使用した写真について現場における撮影は秋成・今村が行い、空中写真については(株)スカイサーベイに委託した。また、遺物撮影については秋成が清武町埋蔵文化財センターで行った。

7. 本書で使用した土層及び土器の色調等は『新版 標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。

8. 本書に使用した方位は磁北と座標北がある。座標北を用いる場合にはG. Nと表示する。またレベルは海拔絶対高である。

9. 本書で使用した記号は以下のとおりである。

SC…土坑・陥し穴状遺構 SI…集石遺構 SA…竪穴住居 SB…掘立柱建物

10. 現地における調査ならびに本書の作成にあたり、以下の方々から貴重なご指導とご助言を頂きました。記して感謝いたします。（敬称略）

島田正浩・金丸武司・稲岡洋道・竹中克繁（宮崎市教育委員会）、柴畑光博・山下大輔（都城市教育委員会）、菅付和樹・藤木聡・松本茂・有馬絢子（宮崎県埋蔵文化財センター）

11. 本書の執筆・編集は秋成が行った。

12. 出土遺物その他の諸記録は清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の経過	1
1	調査に到る経緯	
第2節	遺跡の立地と環境	1
第3節	調査の概要と基本層序	1
1	基本層序	
2	調査方法	
第2章	旧石器時代の調査	5
第3章	縄文時代早期の調査	7
第1節	遺構について	7
1	集石遺構	
2	土坑	
3	陥し穴状遺構	
4	炉穴	
第2節	包含層出土遺物について	12
1	土器・土製品	
2	石器	
第4章	縄文時代前期以降の調査	27
第1節	縄文時代前期から中期の遺構と遺物について	27
第2節	古代の遺構と遺物について	34
第3節	その他の時代の遺構と 基本層序3層の出土遺物について	37
第5章	おわりに	47
	調査抄録	

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (S=1/25000) ……………	2	第13図	縄文時代早期遺物包含層出土土器 実測図⑤ (S=1/3) ……………	15
第2図	遺跡周辺地形図 (S=1/5000) ……………	3	第14図	縄文時代早期遺物包含層出土土製品 実測図 (S=1/3) ……………	16
第3図	基本土層図 (S=1/30) ……………	4	第15図	縄文時代早期遺物包含層出土石器 実測図 (S=2/3 1/2) ……………	17
第4図	旧石器時代遺物実測図 (S=2/3) ……………	5	第16図	縄文時代前期以降の遺構配置図 (S=1/250) ……	28
第5図	旧石器時代包含層確認トレンチ及び 縄文時代早期遺構配置図 (S=1/250) ……………	8	第17図	縄文時代前期・中期遺構・遺構内出土遺物 実測図 (S=1/30 2/3 1/3 1/2) ……………	29
第6図	縄文時代早期遺構及び遺構内出土遺物 実測図① (S=1/30 2/3) ……………	9	第18図	縄文時代中期遺構・遺構内出土遺物 実測図① (S=1/30 1/3) ……………	30
第7図	縄文時代早期遺構・遺構内出土遺物 実測図② (S=1/30 2/3) ……………	10	第19図	縄文時代中期遺構・遺構内出土遺物 実測図② (S=1/30 1/3 1/2) ……………	31
第8図	縄文時代早期遺物包含層出土土器 分布図 (S=1/100) ……………	10	第20図	縄文時代中期遺構・遺構内出土遺物 実測図③ (S=1/30 1/3 1/2 2/3) ……………	32
第9図	縄文時代早期遺物包含層出土土器 実測図① (S=1/2 1/3) ……………	11	第21図	SA-3実測図 (S=1/40) ……………	35
第10図	縄文時代早期遺物包含層出土土器 実測図② (S=1/3) ……………	12	第22図	SA-3遺物出土状況図 (S=1/20) ……………	36
第11図	縄文時代早期遺物包含層出土土器 実測図③ (S=1/3) ……………	13	第23図	SA-3出土土師器実測図 (S=1/3) ……………	36
第12図	縄文時代早期遺物包含層出土土器 実測図④ (S=1/3) ……………	14	第24図	SC-19実測図 (S=1/30) ……………	37
			第25図	縄文時代中期～古墳時代遺物 実測図 (S=1/3) ……………	38

表 目 次

第1表	旧石器時代遺物計測分類表 ……………	6	第6表	縄文時代早期遺物包含層出土土器計測分類表 ……	20
第2表	縄文時代早期土器観察表① ……………	18	第7表	縄文時代前期・中期遺構内出土土器観察表 ……	33
第3表	縄文時代早期土器観察表② ……………	19	第8表	縄文時代前期・中期遺構内出土土器計測分類表 ……	33
第4表	縄文時代早期土器観察表③ ……………	20	第9表	縄文時代中期～古代の土器観察表 ……………	39
第5表	縄文時代早期土製品計測分類表 ……………	20	第10表	掘立柱建物跡一覧表 ……………	39

図 版 目 次

巻頭カラー1	岡第4遺跡全景				
巻頭カラー2	SC-20・21 (縄文時代早期の陥し穴と炉穴)、SI-22・24・25 (縄文時代早期の集石遺構)				
巻頭カラー3	調査区東側主要遺構群 (縄文時代前期以降の遺構)、SC-14 (縄文時代中期の土坑)				
巻頭カラー4	SI-6 (縄文時代中期以降の集石遺構)、SA-3出土土師器「杯」と「椀」				
写真図版1	岡第4遺跡基本土層 ……………	4	写真図版9	縄文時代前期・中期土坑 ……………	40
写真図版2	旧石器時代遺物包含層出土石器 ……………	6	写真図版10	縄文時代中期土坑 ……………	41
写真図版3	縄文時代早期遺構① ……………	21	写真図版11	縄文時代中期土坑・古代住居 ……………	42
写真図版4	縄文時代早期遺構② ……………	22	写真図版12	古代・近世～近代遺構 ……………	43
写真図版5	縄文時代早期遺物包含層出土土器① ……	23	写真図版13	縄文時代前期～中期遺物 ……………	44
写真図版6	縄文時代早期遺物包含層出土土器② ……	24	写真図版14	古代土師器 (SA-3出土土器) ……………	45
写真図版7	縄文時代早期遺物包含層出土土器③ ……	25	写真図版15	古墳時代土師器 ……………	46
写真図版8	縄文時代早期遺物包含層出土遺物 ……	26	写真図版16	発掘調査参加者 ……………	47

第1章 はじめに

第1節 調査の経過

1. 調査に到る経緯

平成21年3月31日、宅地造成計画に伴い株式会社 代表取締役 より、清武町大字今泉字岡853番地-1、853番地-2、853番地-3における文化財所在について、清武町教育委員会教育長宛に照会がなされた。当該地は岡第4遺跡内であるとの回答し、その回答を受けた上で宅地造成計画を考えているとのことであったため、町教育委員会において埋蔵文化財の確認調査を平成21年4月20日～24日の間に実施した。

その結果、事業予定地の一部において縄文時代早期の遺物包含層や掘立柱建物跡などが検出されたため、町教育委員会は株式会社 との間に埋蔵文化財の取り扱いに関する協議をおこなった。協議の結果、今回の宅地造成は盛り土での対応はできない、掘削範囲は遺物包含層や遺構検出面にまで及ぶとのことであったため、本調査の必要の旨を伝え、確認調査によって縄文早期の遺物包含層および掘立柱建物等の遺構が検出された1270㎡の範囲について本調査を実施することとなった。

発掘調査は平成21年8月7日から10月30日までおこなわれ、整理作業は平成21年10月1日から平成22年2月26日までおこなわれた。

第2節 遺跡の立地と環境

岡第4遺跡は清武町大字今泉字岡に所在する。本遺跡は北側を岡川、南側を祝田川に挟まれたシラス台地上の先端部に位置する。今泉地区には清武町詳細分布調査報告書によると、本遺跡が立地するシラス台地上には岡第1～第3遺跡・谷ノ口遺跡などが立地している。また祝田川の南側には水無川が存在し、祝田川と水無川に挟まれた台地上には中泉遺跡・竹ノ山遺跡が存在する。水無川の南側の台地上には県営圃場整備事業の開発によって発掘調査のおこなわれた角上原遺跡群があり、縄文時代早期から近世までの遺構・遺物が検出されている。特に三角堀遺跡では縄文前期の曾畑式土器が出土した住居跡が発見され注目された。

本遺跡は台地の先端部分に当たり、遺跡の東側は一段下がる低地となっているため本遺跡からの東側の見晴らしは大変よい。現在「岡」という地名は遺跡周辺及びその東側にある低地も含めての範囲となっているが、もともとはその低地から見て、本遺跡周辺が丘の上にあるような状態なので、本遺跡周辺を「岡」と呼んでいたということである。江戸時代には本遺跡周辺に武家屋敷群があったとのことであるが、現在はその石垣等が残っているだけで、当時の詳細な状況は明らかでない。

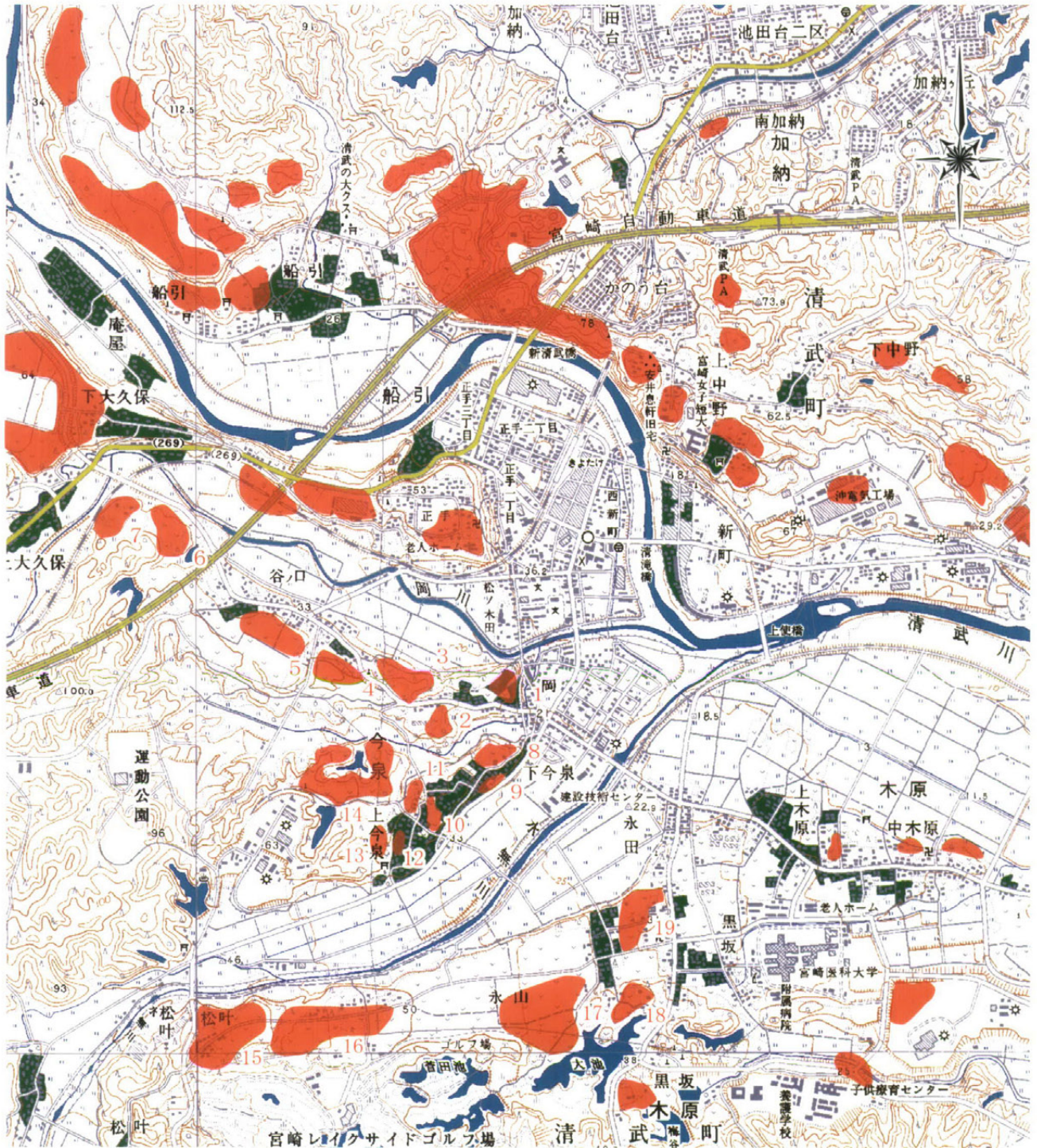
本遺跡の周辺はもともとの地形を把握することが困難になっているほど宅地化が進んでいる。地元の方々の話では、50年くらい前は本遺跡周辺部から低地にいたるまでの斜面の途中に湧水地点があり、学校帰りなどにそこで水飲んでいたということであった。以前の地権者から話をうかがうと調査区内には屋敷があって、その敷地内で畑を耕し、日向夏などを作っていたとのことであり、著しく削平を受けていることが予想された。

第3節 調査の概要と基本層序

1. 基本層序

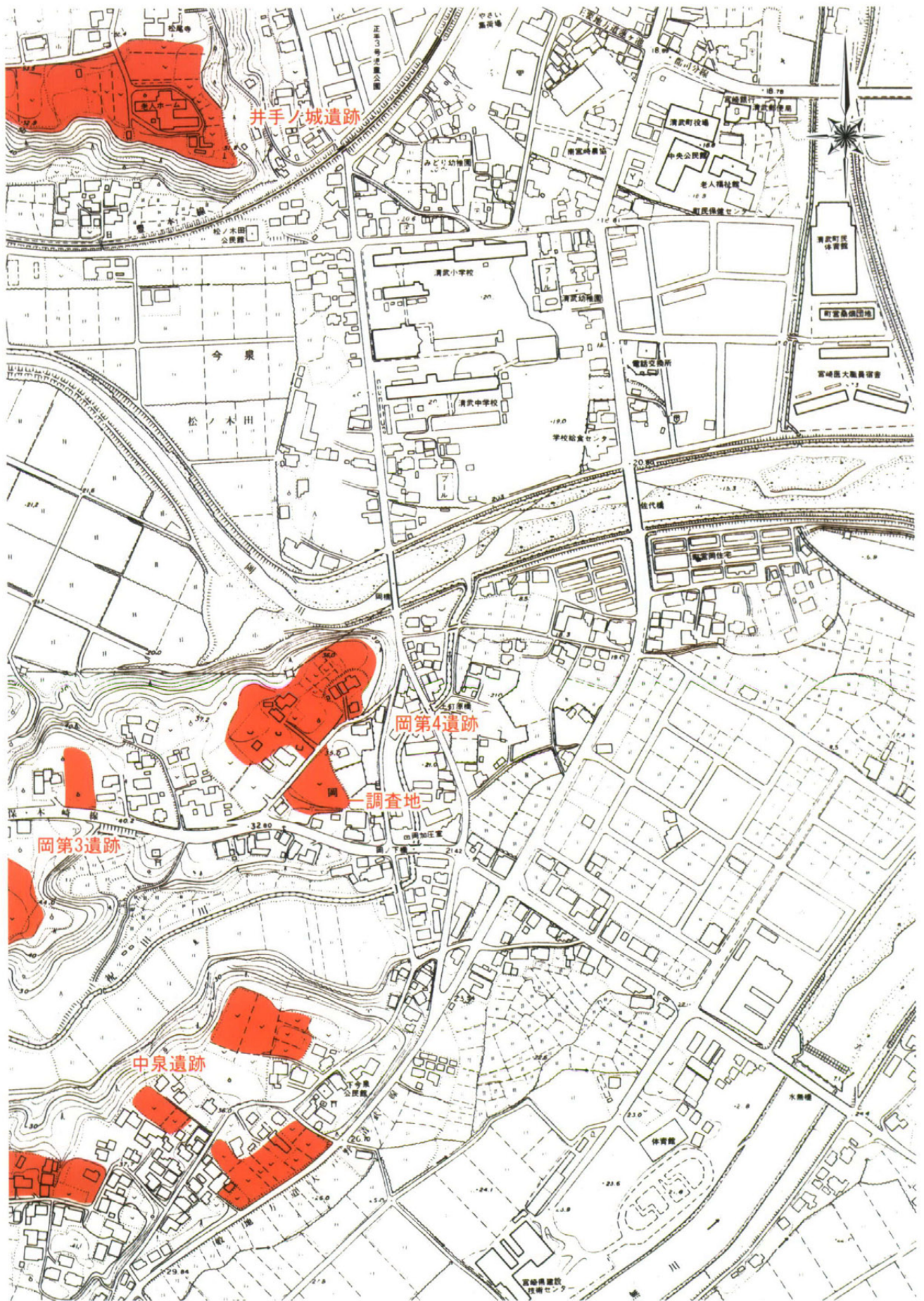
第3図のとおりであるが、調査区の大半は削平を受けており、ほとんどの部分で9層が露出していた。9層より上の層序については調査区内に部分的に残存しているだけで、広範囲に平面的な広がりを確認することができなかった。本調査区域においてはアカホヤ火山灰層が検出されなかったため、調査区北側に残存していた2層とその下の4層の境目を見分けることが困難であった。なお、2層からは古代の遺物が出土している。これらのことから、本調査区は一度古代に整地されている可能性が考えられる。

なお、3層については基本土層を記録した部分では確認されずに、調査区の南東側と西側の斜面部分にのみ残存している状況であった。削平状況が著しかったため、直接2層及び4層との対比はおこなえなかったが、各層から出土した遺物を検討して、基本土層の中への位置づけをおこなった。

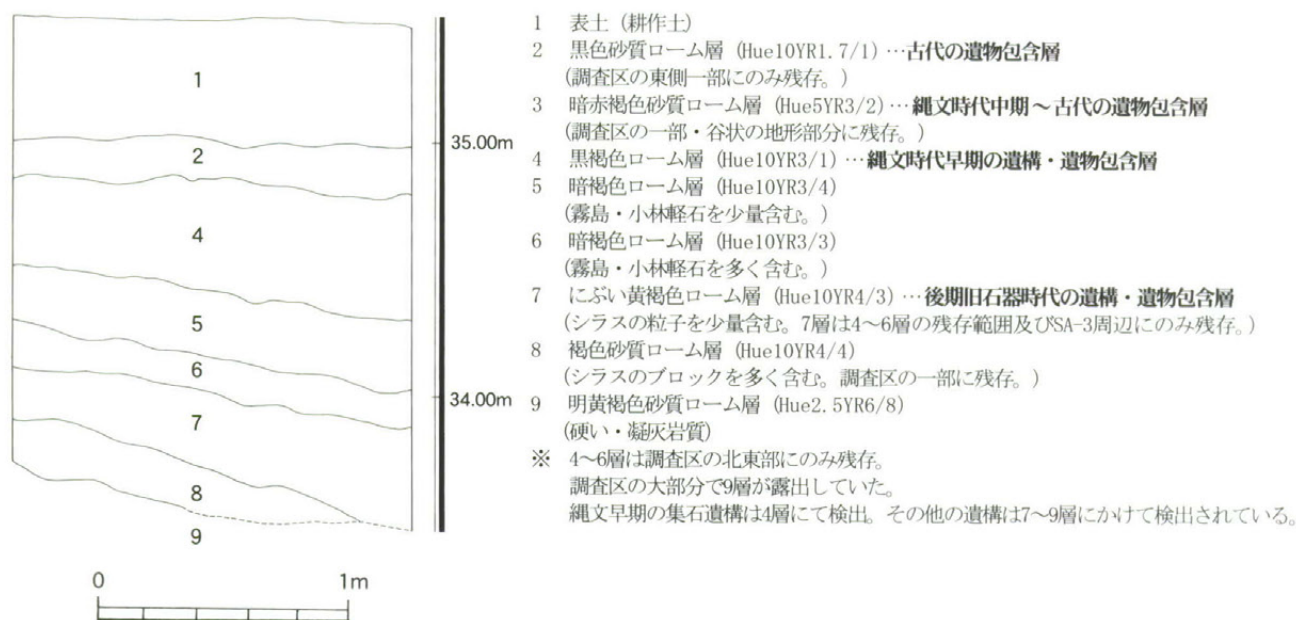


- 1 岡第4遺跡 2 岡第3遺跡 3 岡第2遺跡 4 岡第1遺跡
 5 谷ノ口遺跡 6 通山第2遺跡 7 通山第1遺跡 8 中泉遺跡第1地区
 9 中泉遺跡第2地区 10 中泉遺跡第3地区 11 中泉遺跡第4地区
 12 中泉遺跡第5地区 13 中泉遺跡第6地区 14 竹ノ山遺跡 15 上ノ原遺跡
 16 田代掘遺跡 17 三角掘遺跡 18 高尾遺跡 19 前畑遺跡

第1図 遺跡位置図 (S=1/25000)



第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/5000)



第3図 基本土層図 (S=1/30)



写真図版1 岡第4遺跡基本土層

2. 調査方法

今回の発掘調査においては調査中の廃土等を調査区域外に運び出すことができなかったので、調査区を東側と西側に便宜的に分け、まず東側の調査を終了させてから、次に西側の調査をおこなうこととなった。

重機により表土を除去すると、調査区域の大部分において9層が露出された。表土を除去した後はジョレンにて遺構検出を行い、検出された遺構については移植籠手で掘り下げをおこなった。その結果、近世～近代にかけての掘立柱建物跡8棟、古代の竪穴住居跡1棟、縄文時代前期～中期の土坑17基、縄文中期以降の集石遺構1基、柱穴多数が検出された。

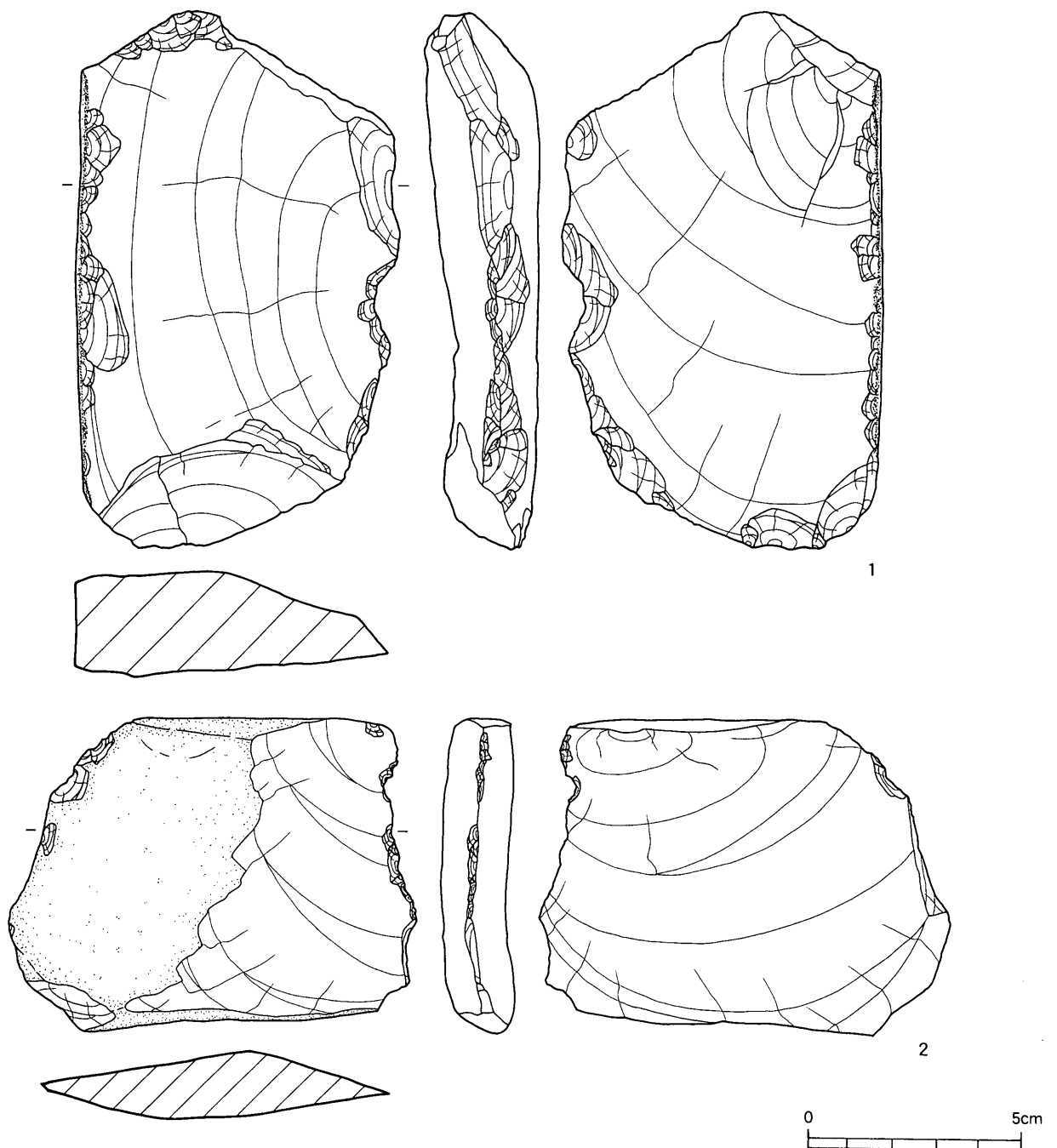
なお、調査区の北側では縄文時代早期の遺物包含層である4層が約130㎡残存していた部分があったのでその部分についてはジョレンとネジリガマにて掘り下げをおこない、縄文早期の遺構と遺物の検出に勤めた。縄文早期の遺構としては集石遺構3基、陥し穴状遺構1基、炉穴1基、土坑3基が検出された。

近世から縄文早期の調査終了後、旧石器時代の遺物包含層の可能性のある7層が残存している部分については、遺物確認のためのトレンチを3箇所設定し掘り下げを行った。その結果、一箇所のトレンチから13点の礫と7点の石器が出土したため、その記録作業を行った。また調査区にわずかに残る3層の掘り下げも、旧石器時代の調査と並行して行い、出土遺物の記録作業をおこなった。

第2章 旧石器時代の調査

基本層序の7層は残存状況が良好ではなかったが、霧島小林軽石層の下位のローム層であり旧石器時代の遺物包含層の可能性が考えられたため、調査区域内に3箇所遺物確認のトレンチを設定して掘り下げをおこなった結果、そのうちの一つのトレンチから砂岩製のスクレイパー2点、剥片3点、頁岩製の剥片2点、砂岩礫・焼礫13点が出土した。同トレンチ内からは黒曜石製の剥片・碎片も出土したが、その周辺は風倒木による攪乱を受けていたため、今回の報告からは除外している。なお砂岩製の石器については同一母岩のものと考えられるが、接合はしなかった。以下に図示した2点の解説をおこなうが、その他の資料については表1を参照していただきたい。

1は砂岩製のスクレイパーである。背面の左側縁部に粗い刃部調整を施している。右側縁は自然面であり、自然面には敲打痕が確認され、自然面と剥離面の境付近にも敲打痕とそれにより発生した小規模な剥離が無数に見られることから、敲石としても使用していたものと考えられる。2は不定形な剥片を素材としたスクレイパーで背面の右側縁部に刃部加工が施されている。右側縁の下部は欠損しているようである。

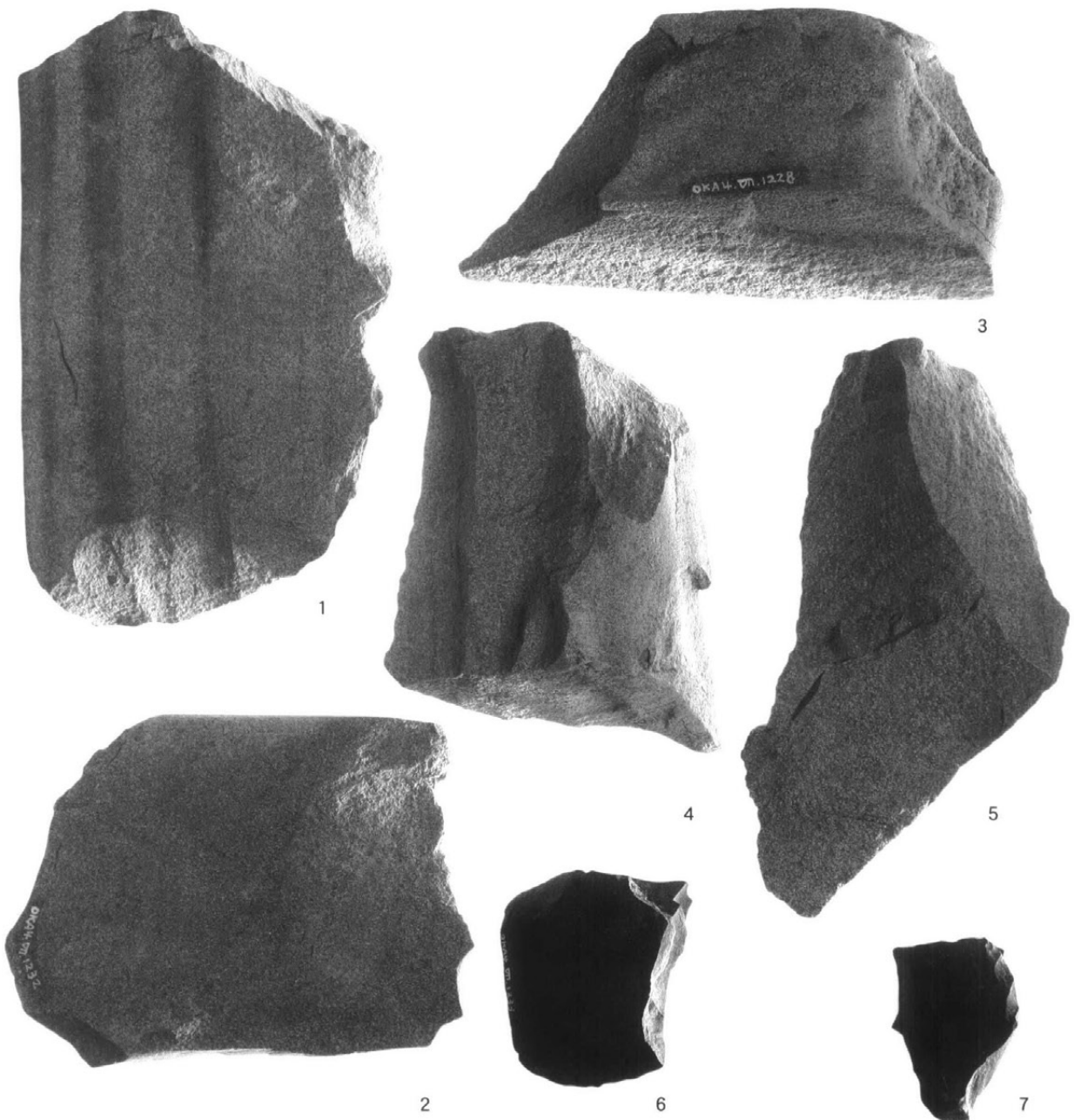


第4図 旧石器時代遺物実測図 (S=2/3)

第 1 表 旧石器時代遺物計測分類表

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリット	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
1	209	スクレイパー		7	砂岩	12.4	7.5	2.7	292.3	
2	203	スクレイパー		7	砂岩	7.25	9.55	1.75	138.2	
3	—	剥片		7	砂岩	5.8	11.2	3.8	195.3	
4	—	剥片		7	砂岩	8.5	7.1	3.3	172.5	
5	—	剥片		7	砂岩	11.9	6.8	2.7	121.2	
6	—	剥片		7	頁岩	4.5	4.0	1.6	31.2	
7	—	剥片		7	頁岩	3.8	2.6	1.2	11.8	

()の値は残存値を示す



写真図版 2 旧石器時代遺物包含層出土石器

第3章 縄文時代早期の調査

第1節 遺構について

1. 集石遺構

集石遺構は3基検出され、その全てが調査区北側の縄文時代早期の遺物包含層（基本層序4層）の残存する範囲で確認された。縄文早期の遺物包含層中からは焼礫が6394点出土したが、集石遺構は遺物包含層の掘削作業中に特に焼礫が密集するところを精査することで検出された。4層の掘削が始まってしばらくして3基ともほぼ同時に検出されており、いずれの集石遺構とも検出面に高低差はない。

縄文時代早期の集石遺構は検出写真撮影後、掘り込み内の埋土を除去し、礫を検出して礫の平面の写真撮影後、礫の平断面図を作成しながら、礫を除去し完掘するという調査方法をおこなった。

SI-22は礫の範囲が1.35m×1mで、礫の総数が254個、総重量が21.3kgであった。掘り込みは不整形な楕円形プランで検出面からの深さは0.1mを測る。出土遺物は砂岩製の石核が1点、土製円盤の可能性のある土器片1点と塞ノ神式土器片、押型文土器片、別府原式土器片が焼礫と共に出土している。

SI-24は礫の範囲が1.1m×0.8mで、礫の総数が125個、総重量が15.8kgであった。掘り込みは楕円形プランで、検出面からの深さは0.15mを測る。出土遺物は砂岩の円礫を使用する敲石、塞ノ神式土器片、押型文土器片、別府原式土器片が焼礫と共に出土している。

SI-25は礫の範囲が0.75m×0.65mで、礫の総数が92個、総重量は10.4kgであった。掘り込みは円形プランで、検出面からの深さは0.8mを測る。出土遺物は別府原式土器片が焼礫と共に出土している。

どの集石遺構も焼礫の間から縄文土器や石器などが出土したが、出土した土器は複数の土器型式が入り混じる状況であり、確実に集石遺構に伴う遺物とは考えられない。

2. 土坑

土坑は調査区の北部の4層が残存する範囲で2基（SC-18・26）、調査区中央付近の7層が残存する範囲で1基（SC-5）検出された。

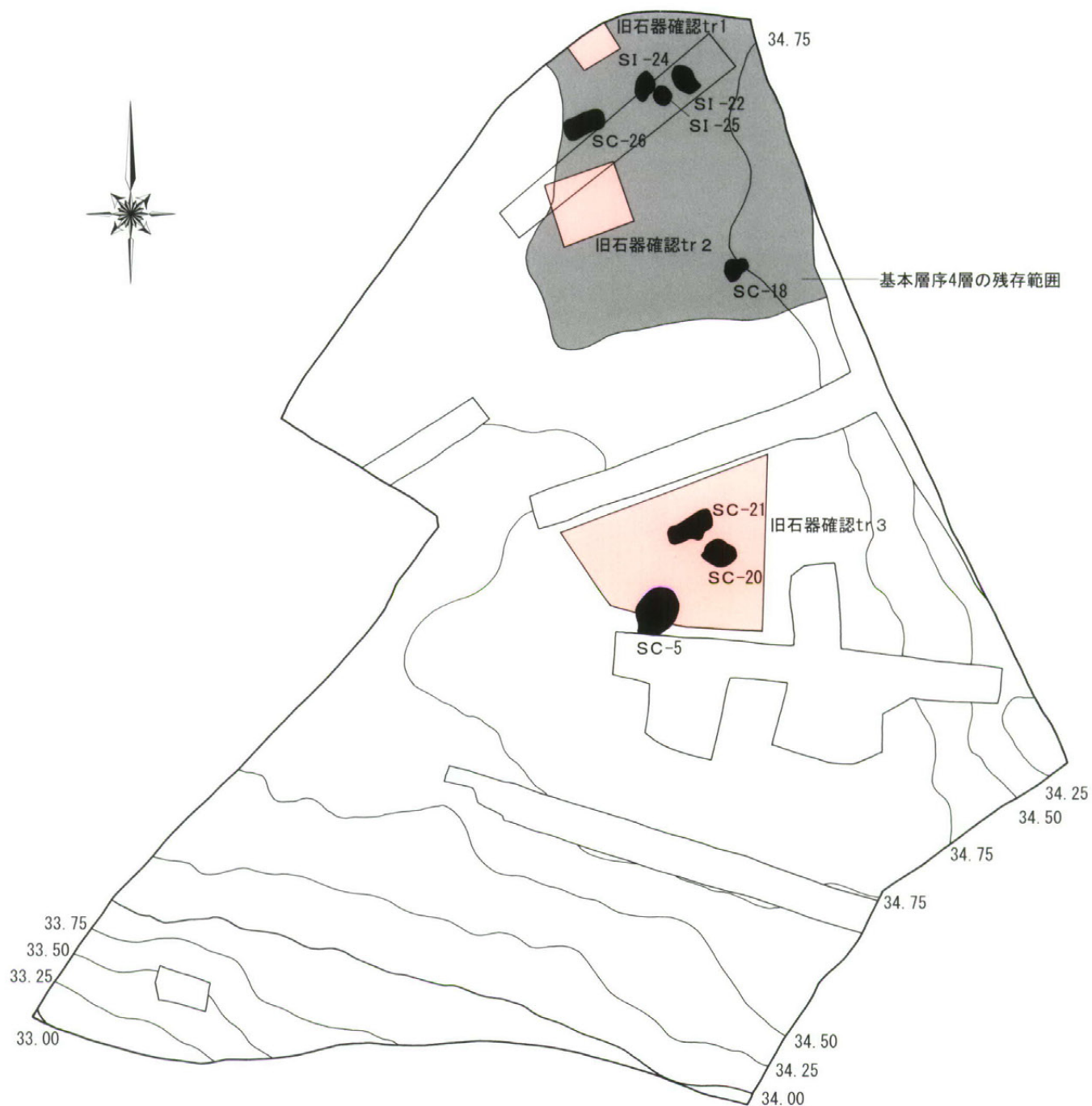
SC-5は2.2m×1.55mの不整形な楕円形プランで、床面には数箇所のくぼみが見られた。最深部のくぼんだところで検出面からの深さが50cmを測る。平面プラン、床面の形状も不整形であったが埋土の観察からは複数の遺構の切り合いは確認されなかった。出土遺物は遺構埋土中から桑ノ木津留産黒曜石製の石鏃(1)1点、砂岩製の剥片、砂岩の円礫を使用する敲石、別府原式土器片、焼礫が出土している。1は正三角形の石鏃で、灰色の桑ノ木津留産黒曜石を使用している。

SC-18は4層が残存する南西から北東に下る斜面の南側で4層の掘り下げ作業の終盤に検出された。凸型の土坑で長軸は1.04m、短軸は広いほうで0.83m、狭いほうで0.48mを測る。床面は二段となっており、一見炉穴のような形態でもあったため、2基の土坑が切り合っている可能性も考えられたが、埋土の観察からは焼土も遺構の切り合い関係も確認されなかった。出土遺物は上牛鼻産黒曜石製の石核1点と風化のため不明瞭だがおそらく外面に縄文を施す土器片、焼礫が出土している。

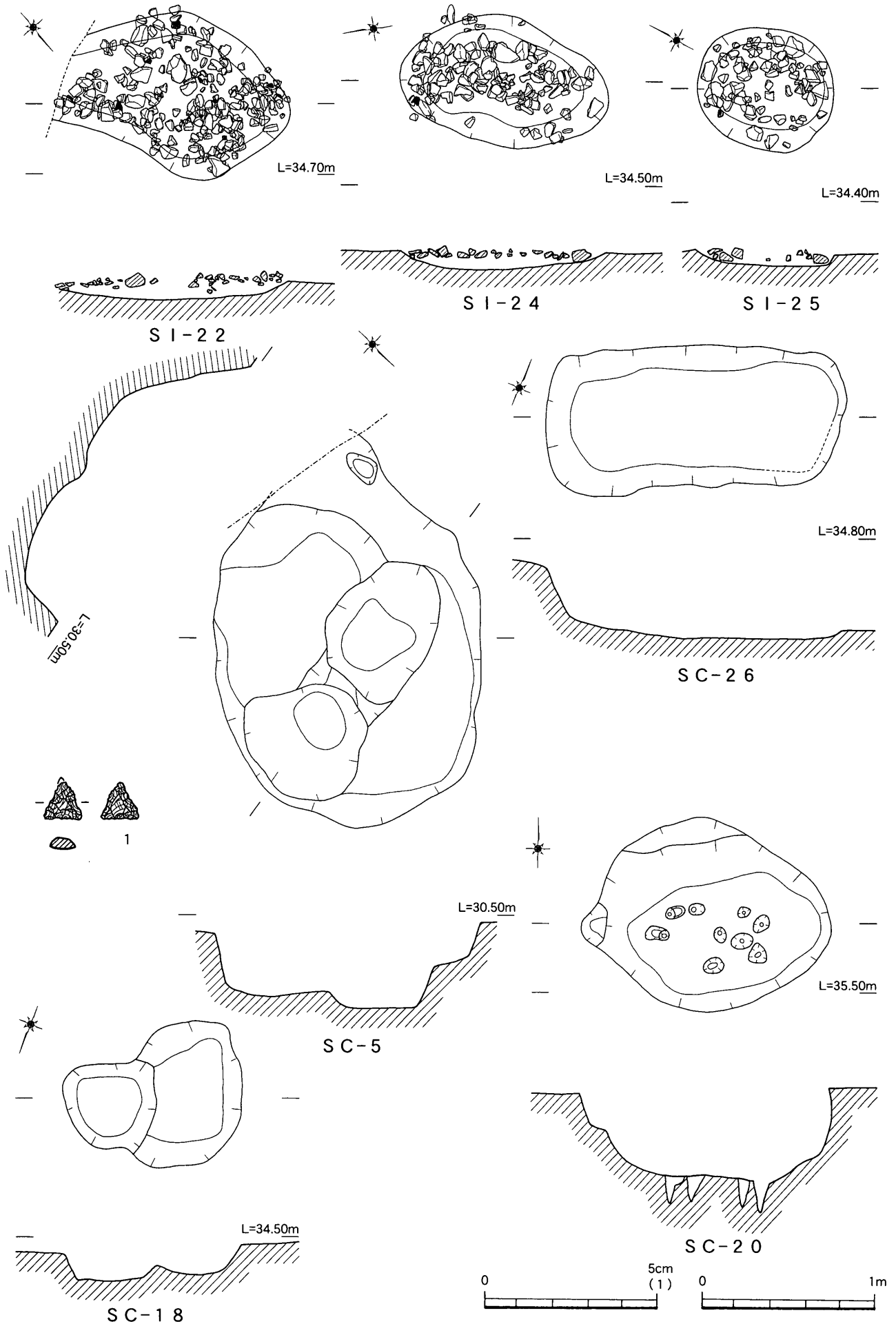
SC-26は4層が残存する南西から北東に下る斜面の北側で4層の掘り下げ作業の終盤に検出された。長方形の土坑で長軸は1.71m、短軸は0.86mを測る。出土遺物は別府原式土器片、焼礫が出土している。

3. 陥し穴状遺構

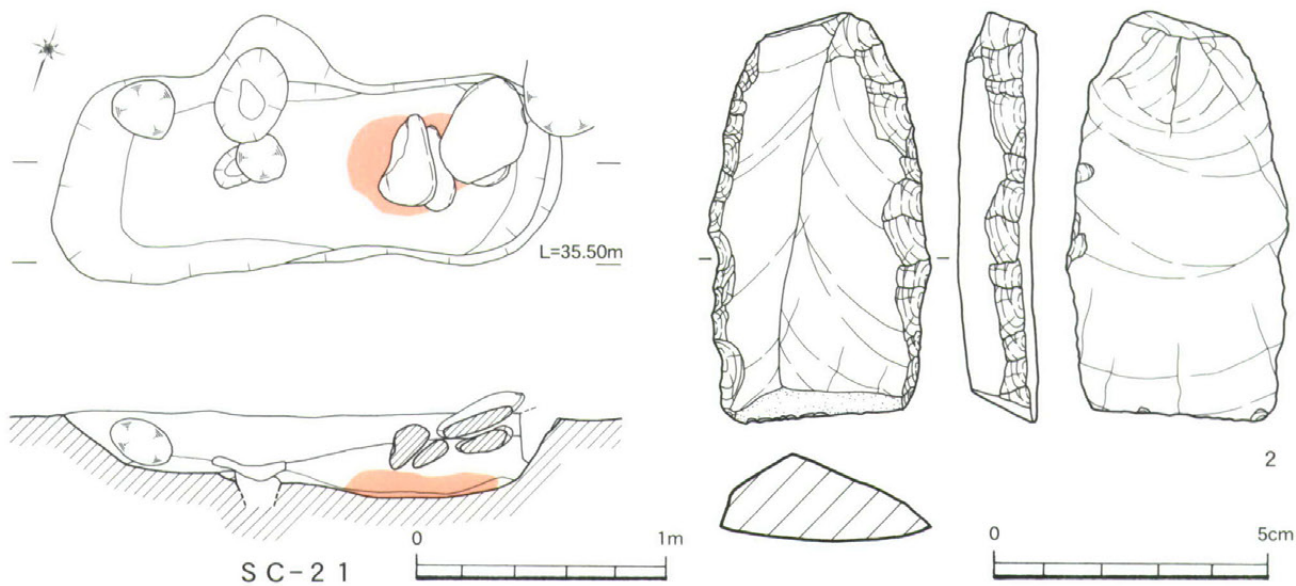
陥し穴状遺構（SC-20）は調査区中央付近の7層が残存する範囲で1基検出された。不整形な楕円形プランで長軸は1.45m、短軸は1.11mで、検出面からの深さは0.5mを測る。床面には逆茂木の痕跡が不規則に9箇所確認された。東側は床面付近で若干オーバーハングしており、西側は床面より25cmほど高い位置で一段ステップを設けている。出土遺物は埋土中より別府原式の土器片、桑ノ木津留産黒曜石製の石核3点、剥片1点、頁岩製の剥片1点、砂岩製の剥片1点、チャート製の剥片2点、焼礫が出土している。



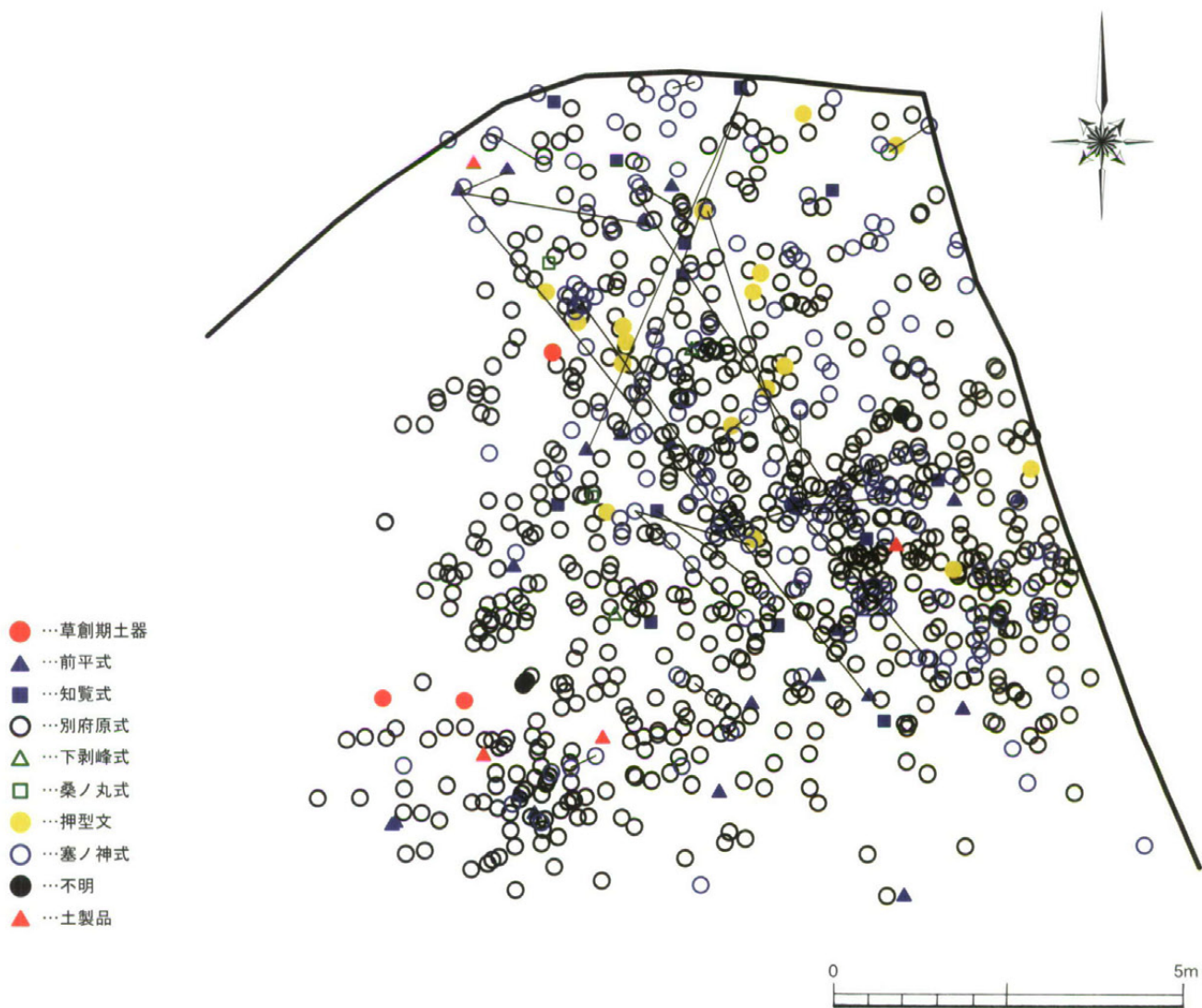
第5図 旧石器時代包含層確認トレンチ及び縄文時代早期遺構配置図 (S=1/250)



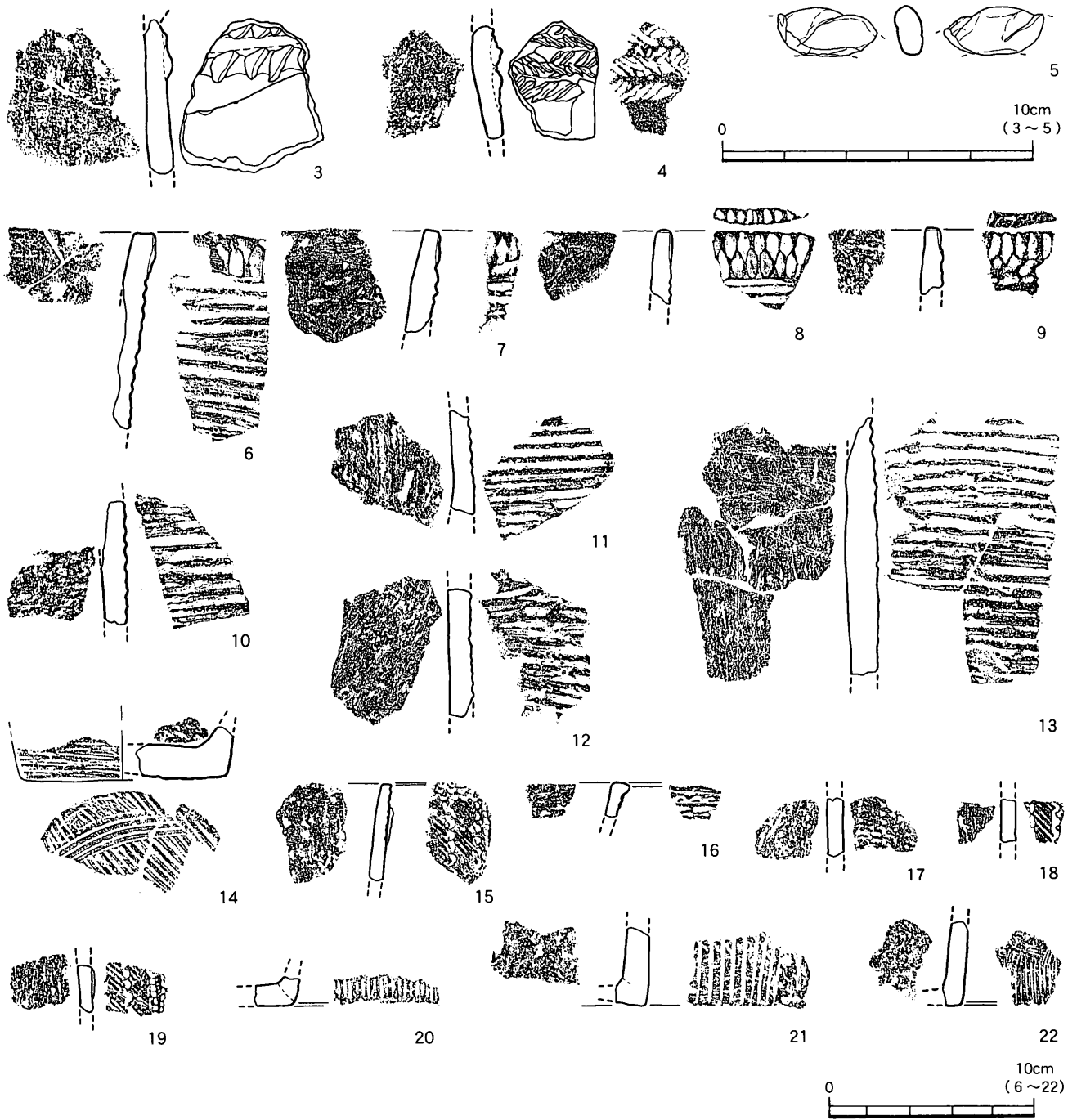
第6図 縄文時代早期遺構及び遺構内出土遺物実測図① (S=1/30 2/3)



第7図 縄文時代早期遺構・遺構内出土遺物実測図② (S=1/30 2/3)



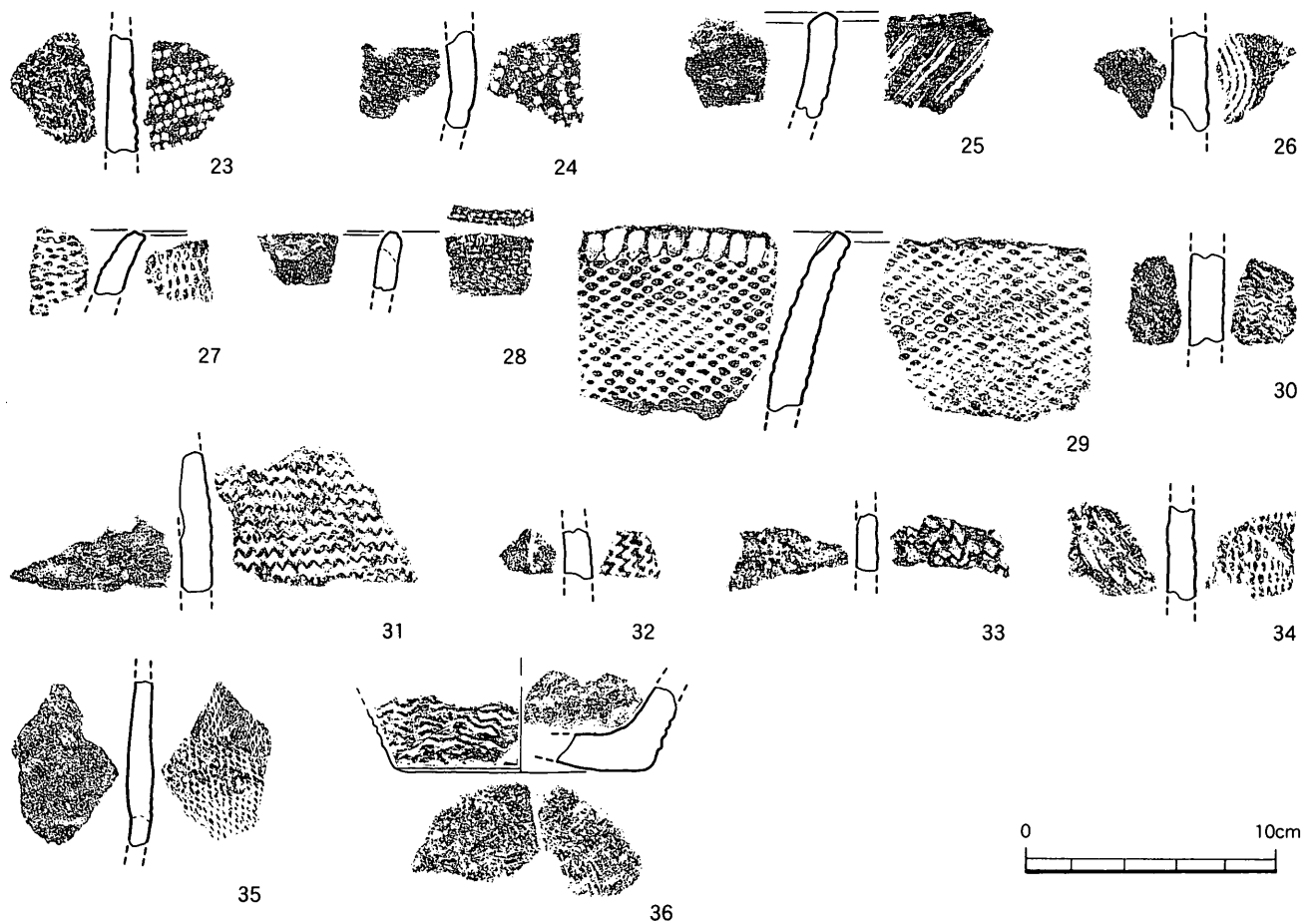
第8図 縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図 (S=1/100)



第9図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/2 1/3)

4. 炉穴

炉穴 (SC-21) は調査区中央付近の7層の残存する範囲で1基、SC-20と近接して検出された。平面プランの検出時において、西側に石皿1個が地表から顔を出していたが、遺構の掘り下げを行った結果、最終的には石皿が4点重なって検出された。その石皿を全て図化して取り上げると本遺構の床面が検出され、その付近には焼土が広がっていた。まるで、炉穴の燃焼部を隠すかのようにこれらの石皿が置かれていたような印象をうけた。なお床面の焼土は約10cm堆積していた。ブリッジは残存しておらず、平面形態は不整形な隅丸方形プランで長軸は1.98m、短軸には一部突出部が見られ、その付近で1mを測る。床面は東から西へ若干傾斜しており、最も深い位置で検出面からの深さは0.32mを測る。出土遺物は燃焼部に置かれた石皿4点と、埋土中より桑ノ丸式土器片、桑ノ木津留産黒曜石製の石核1点・碎片10点、ホルンフェルス製のスクレイパー (2)、焼礫が出土した。2は縦長剥片素材で、両側縁に刃部加工が見られる。背面に縦長剥片を連続的に作出した痕跡があり、また本遺構付近からは旧石器が出土していることを考慮すると、本資料も旧石器時代に該当する資料の可能性はある。



第10図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)

第2節 包含層出土遺物について

1. 土器・土製品

調査区の北側に残存していた縄文時代早期の遺物包含層（基本層序4層）中より、904点の土器が出土した。縄文草創期の土器から早期後葉までの幅広い時期の土器が出土している。縄文早期の土器の平面分布図を見ても特徴的な偏りは見られず、4層の残存範囲のほぼ全面に様々な土器が出土している。その中で一番多かったのは別府原式土器であり、全体の73.8パーセントを占める。以下に個別に解説をおこなう。

隆帯文土器 (3~5)

口縁部付近に隆帯を巡らせ、その上に爪形文を施文する土器で、縄文草創期に該当するものである。全部で3点出土している。5は出土層位と胎土等を考慮すると、おそらく隆帯文土器の口唇部の破片である。

前平式土器 (6~14)

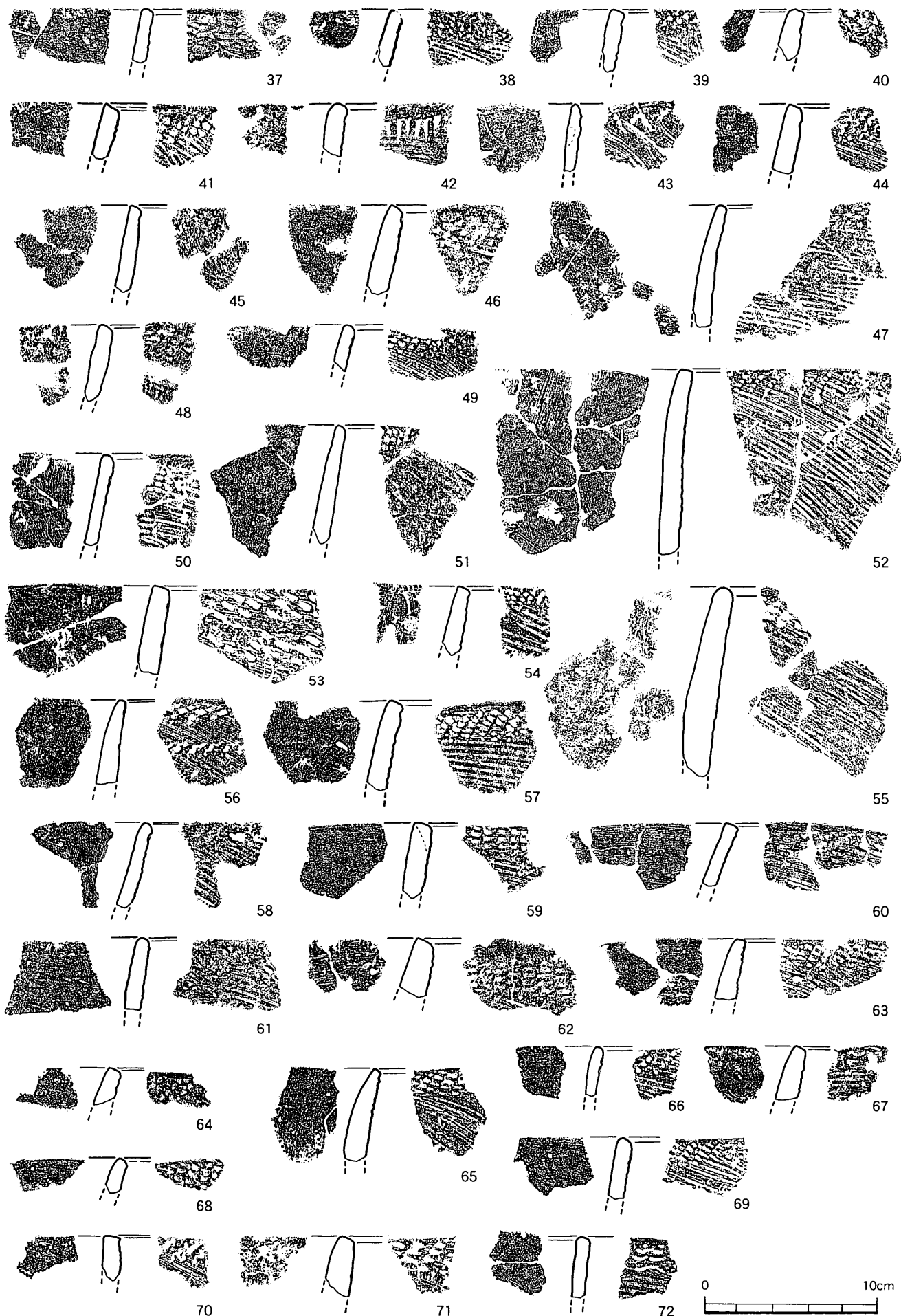
全体の器形は円筒形で、口縁部には平坦面を有する土器である。口唇部外面には工具で刺突文を施し、その下位には横位の深い貝殻条痕文を施す。全部で24点出土している。6~9は口縁部の破片で7だけ口唇部の文様が1段となっている。10~13は胴部片である。14は底部片である。本資料は縄文中期の土坑の埋土中から出土したもので、底部外面にも貝殻条痕により施文しており特徴的である。

加栗山式土器 (15~22)

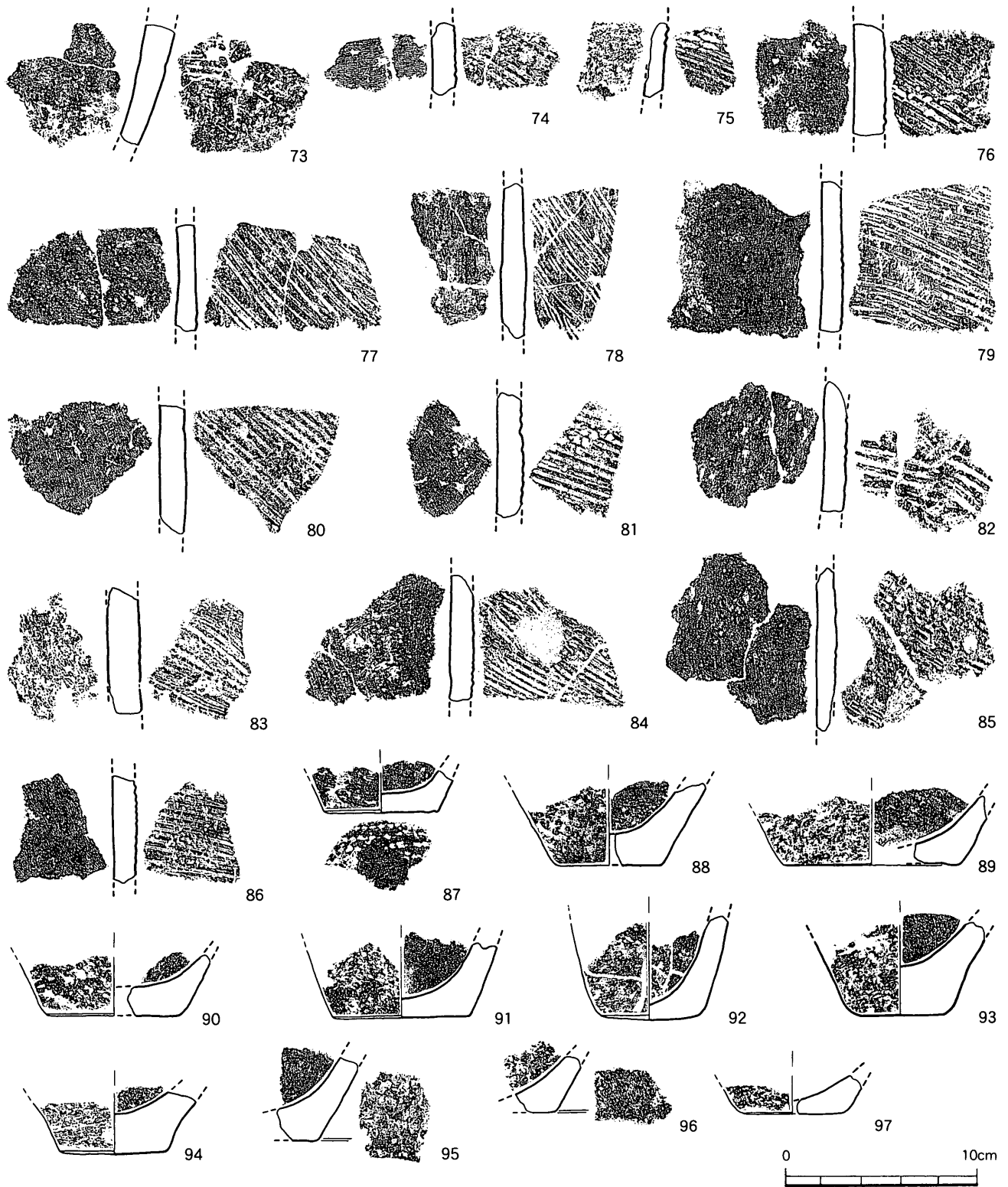
全体の器形は円筒形と角筒形で、口縁部に楔形の突帯を貼り付けるものがある。口唇部外面に横位の貝殻刺突文、その下位には貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を施している。底部付近には縦位の条痕文が施される。全部で11点出土している。15・16は口縁部片で、17~19は胴部片である。20・22は円筒形の底部片で、21は角筒形の底部片である。

下剥峰式土器 (23・24)

外面の文様は全て刺突文のみで構成されている土器である。全部で2点出土している。23・24は胴部片で23は横位の刺突文、24は羽状に刺突文が施文されている。



第11図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)



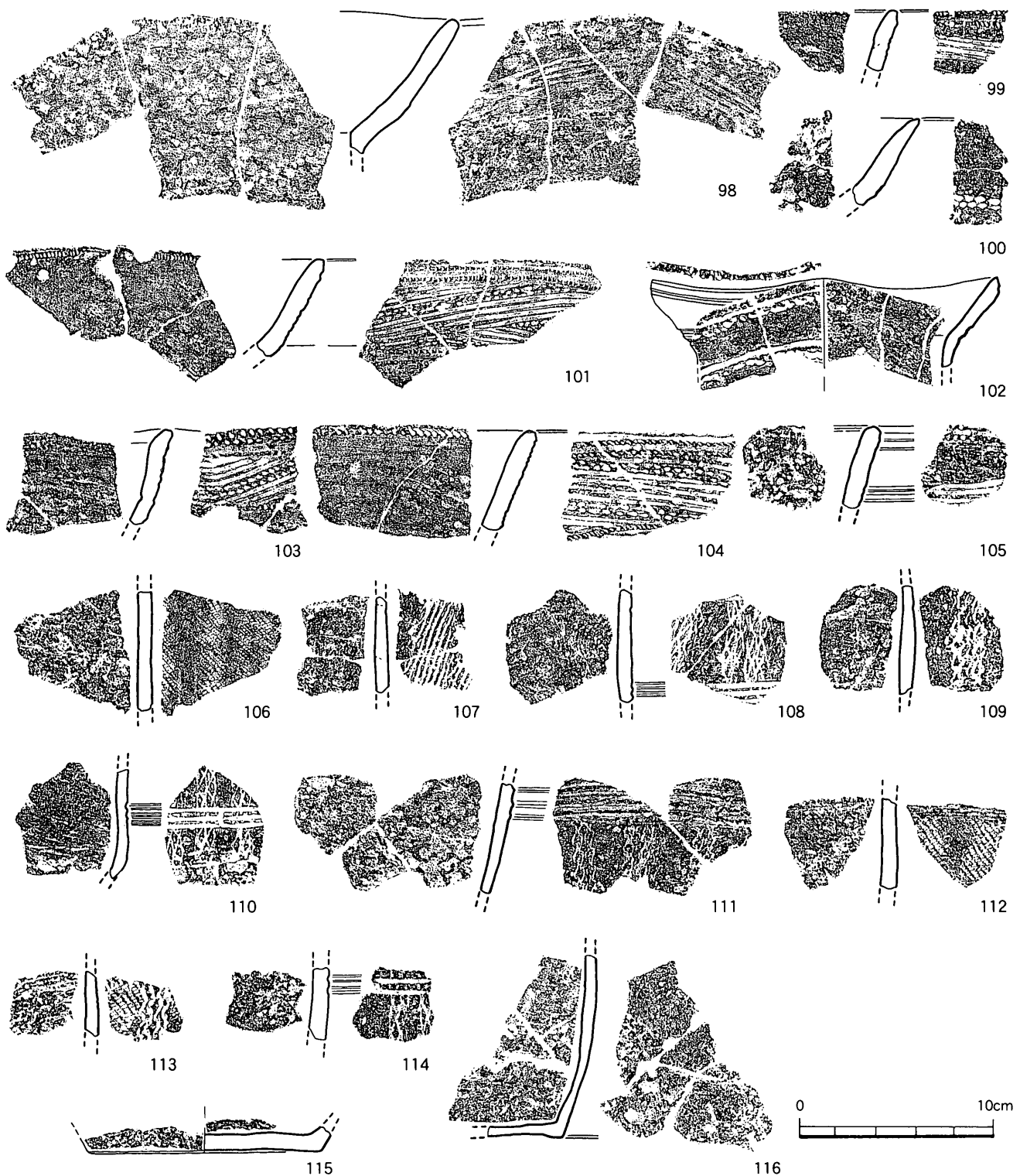
第12図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)

桑ノ丸式土器 (25・26)

口縁部はやや内傾し、内面はミガキ調整で、外面は短い貝殻条痕や沈線によって羽状文や流水文などが施されている土器である。全部で2点出土している。25は沈線によって施文されている。26には流水文がみられる。

押型文土器 (27~36)

外面に彫刻された棒を回転させ、山形や楕円形などの文様を施す土器である。内面の調整にはナデやミガキ調整を施す。全部で17点出土している。27・29は口縁部片で内外面とも同じ原体で押型文を施文している。28は口唇部には刺突文、外面には短枝回転文が施されており、内面の調整はミガキである。内面にミガキ調整を施す押型文土器は本資料だけである。36は山形文を施す平底の底部片で、底部外面に網代圧痕が確認される。



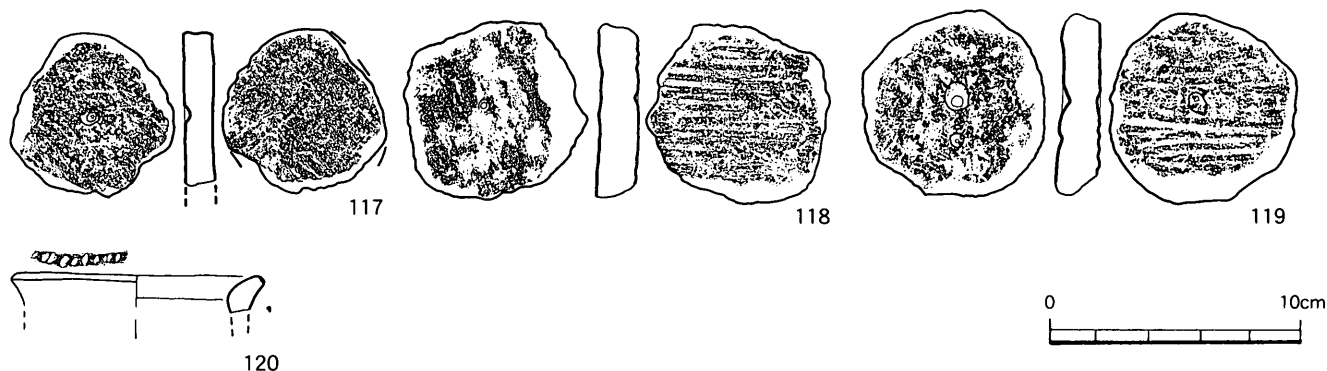
第13図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)

別府原式土器 (37~97)

全体の器形は外側にやや開いた円筒形を呈する。口縁部には貝殻や工具による押し引き文や刺突文を施し、胴部には横位や斜位の浅い条痕文を施している。口縁部は直口または緩やかに外反し、底部は窄まっている。内面の調整は丁寧なナデかミガキ調整である。全部で667点出土している。42は工具による刺突文が施されている。53は押し引き文が2段、56は貝殻腹縁刺突文が2段施されている。87は底部外面に圧痕が見られる。

塞ノ神式土器 (98~116)

口縁部は「く」の字に屈曲して開くラップ形で、二重口縁を呈するものや波状口縁となるものがある。底部は平底かやや上げ底で、胴部は円筒形の器形である。外面には刺突文や沈線文、撚糸文を施しており、本調査区からは貝殻文を施すものは出土していない。また微隆帯を巡らせるものもある。全部で175点出土している。



第14図 縄文時代早期遺物包含層出土土製品実測図 (S=1/3)

土製品 (117~120)

117~119は土製円盤であり、120は耳栓の破片である。118・119は別府原式土器の胴部片を転用したものである。117は縁辺が表面と同じように焼成されており、土器片の転用品ではないと考えられる。いずれも中心部にわずかにくぼみが見られる。120は端部に刻み目が見られることから耳栓の破片と分類した。

2. 石器

土器・土製品と同様に4層の残存する範囲で389点の石器が出土したが、製品類についてはそのほとんどが欠損品であった。以下に主な資料について器種分類の基準等の解説をおこなう。

細石刃 (121・122)

小型の石核から連続的に剥ぎ取られた小型の石刃である。本来は縄文時代早期には該当しないが、4層中より2点出土している。両者共に桑ノ木津留産黒曜石製である。

打製石鏃 (未製品も含める：123~130)

剥片を素材として、両面調整や半両面調整によって先端部を作り出し、平面形が概ね三角形を想定させるもの。平面形や加工状況などにより以下の5種類に分類できた。全部で14点出土しており、126以外はすべて桑ノ木津留産黒曜石製 (肉眼観察) である。1類：平基鏃で平面形が正三角形のもの (123・124)。2類：素材剥片の形状を大きく残すもの (125のみ)。3類：凹基鏃で平面形は二等辺三角形のもの (126~129：全部で5点)。4類：未製品と考えられるもの (130：全部で2点)。5類：欠損品 (図面無し：全部で4点)。

石匙 (131)

剥片を素材として、一部に両側縁からの調整によってつまみ部分を作り出し、その他の部分に刃部加工を施しているもの。1点のみ出土で、素材剥片の形状を大きく残している。

スクレイパー (132・133)

剥片を素材として、その縁辺に連続的な調整により刃部を作り出しているもの。刃部調整は周縁部にとどまる。全部で4点出土している。頁岩の使用が目立つ。132はファーストフレイクを素材としている

石錐 (134・135)

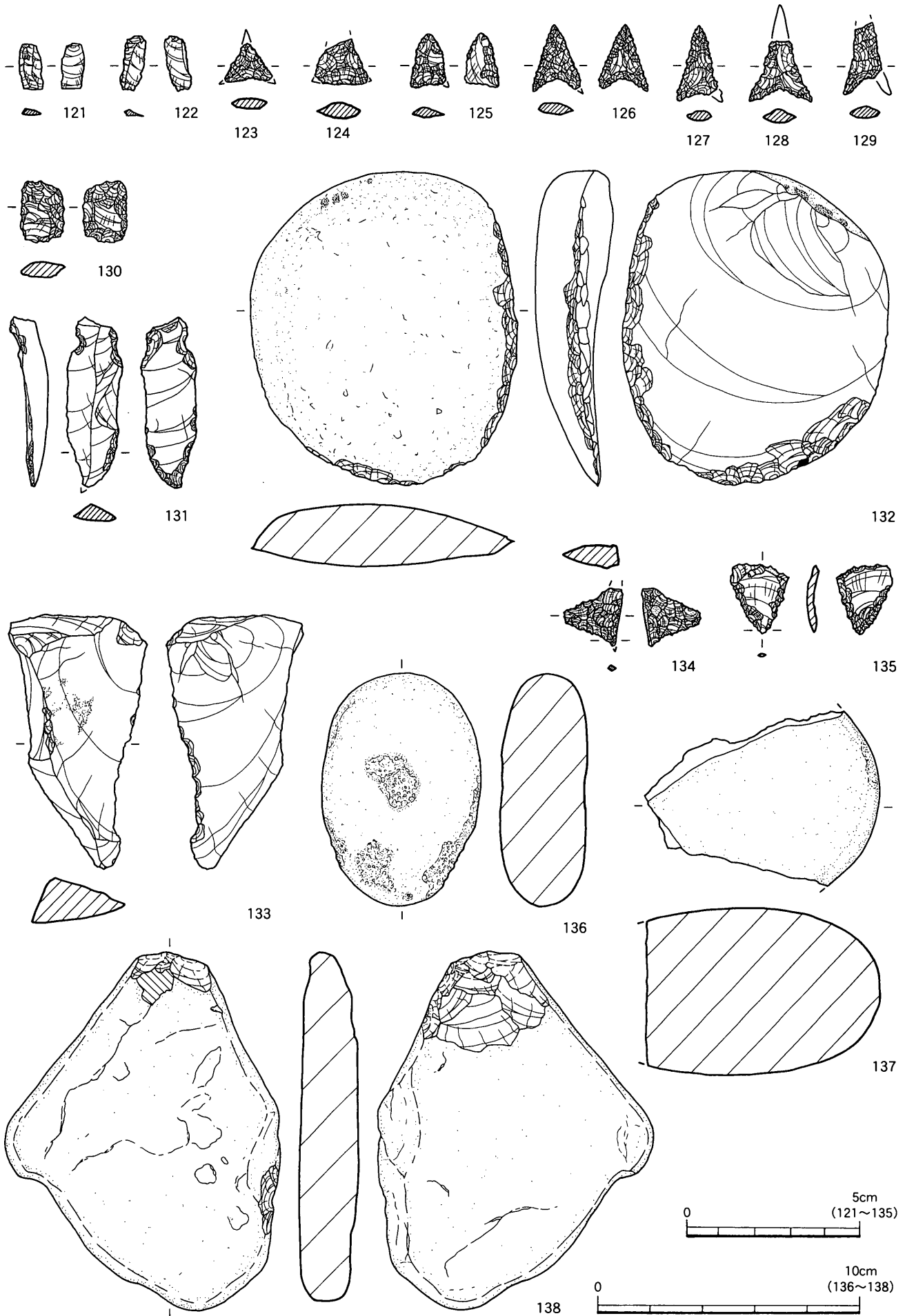
剥片を素材として、両面調整や半両面調整により、全体の形状を整えて一部に錐部を作り出すもの。一部には打製石鏃の未製品が含まれる可能性もある。全部で2点出土している。

敲石・磨石 (136~138)

敲石は円礫や角礫の端部や平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕・凹みを持つもの。磨石は円礫の平らな面に平滑面を持つもの。砂岩礫 (全部で20点) や尾鈴山酸性岩 (全部で8点) 使用されている。

剥片・碎片・石核

上記の資料のほかに図示していないが、多くの剥片・碎片・石核が出土している。大型品には砂岩、小型品には黒曜石が特徴的に使用されている。以下にその数量を示す。なお分類は肉眼観察によるものである。砂岩44点・3104.8g、流紋岩・頁岩17点・266.2g、桑ノ木津留産黒曜石262点・270g、西北九州産黒曜石4点・8.6g、チャート13点・143.5g (うち1点は原礫で118g)。



第15図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図 (S=2/3 1/2)

第2表 縄文時代早期土器観察表①

報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
3	4	深鉢	胴部	隆帯文に爪形文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
4	4	深鉢	胴部	隆帯文に爪形文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
5	4	深鉢?	口縁部	ナデ	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
6	4	深鉢	口縁~胴部	押引文・刺突文・貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
7	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
8	4	深鉢	口縁部	キザミ目・刺突文・貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
9	4	深鉢	口縁部	押引文・刺突文・貝殻条痕文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
10	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
11	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
12	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
13	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	
14	S C-44	深鉢	底部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
15	4	深鉢	口縁部	貝殻条痕文後刺突文楔形突起文に刺突文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/4(にぶい褐)	スス付着
16	4	深鉢	口縁部	刺突文	ナデ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
17	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文後刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
18	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文後刺突文	ナデ	2.5YR4/2(暗灰黄)	2.5Y4/1(黄灰)	
19	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文後刺突文・楔形突起文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR4/1(褐灰)	
20	4	深鉢	底部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	
21	4	深鉢	胴~底部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
22	4	深鉢	胴~底部	条痕文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/1(褐灰)	
23	4	深鉢	胴部	刺突文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(褐灰)	
24	4	深鉢	胴部	刺突文	ミガキ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR4/1(褐灰)	
25	4	深鉢	口縁部	沈線文	ミガキ?	5YR4/2(灰褐)	2.5YR4/3(にぶい赤褐)	
26	4	深鉢	胴部	流水文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
27	4	深鉢	口縁部	楕円押型文	楕円押型文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
28	4	深鉢	口縁部	刺突文・押型文	ミガキ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
29	4	深鉢	口縁部	楕円押型文	楕円押型文	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
30	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
31	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
32	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
33	4	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
34	4	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	
35	4	深鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/2(灰灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
36	4	深鉢	底部	山形押型文・網代瓦痕	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
37	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR6/3(にぶい褐)	
38	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	
39	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	2.5YR5/3(にぶい赤褐)	
40	4	深鉢	口縁部	押引文	ミガキ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
41	3	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	
42	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ?	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
43	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR3/1(黒褐)	
44	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
45	4	深鉢	口縁部	刺突文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
46	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
47	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	
48	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
49	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ナデ	2.5YR4/1(赤灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
50	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	

第3表 縄文時代早期土器観察表②

報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
51	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/2(褐灰)	10YR3/1(黒褐)	
52	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR6/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(褐灰)	
53	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	
54	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ・ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄褐)	
55	4	深鉢	口縁～胴部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ・ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄褐)	
56	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
57	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
58	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(褐灰)	
59	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/2(褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
60	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR6/3(にぶい褐)	
61	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/2(褐灰)	7.5YR6/3(にぶい褐)	
62	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR3/1(黒褐)	7.5YR5/2(褐灰)	
63	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	
64	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(褐灰)	
65	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	2.5Y4/2(暗黄)	7.5YR4/2(褐灰)	
66	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/2(褐灰)	7.5YR4/1(褐灰)	
67	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
68	4	深鉢	口縁部	押引文	ミガキ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
69	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/2(褐灰)	
70	4	深鉢	口縁部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	
71	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ・ナデ	7.5YR5/2(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
72	4	深鉢	口縁部	押引文・貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	スス付着
73	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文・ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
74	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
75	4	深鉢	胴部	押引文・貝殻条痕文	不明	10YR6/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/3(にぶい橙)	
76	4	深鉢	胴部	刺突文・貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/1(黄灰)	
77	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
78	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/1(褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)	スス付着
79	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(褐灰)	
80	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR7/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
81	4	深鉢	胴部	刺突文・貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
82	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(褐灰)	
83	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
84	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	10YR6/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄褐)	
85	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
86	4	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ミガキ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
87	4	深鉢	底部	ミガキ?・圧痕	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
88	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
89	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/2(褐灰)	
90	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
91	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
92	4	深鉢	胴～底部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄褐)	10YR3/1(黒褐)	
93	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄褐)	10YR4/1(褐灰)	
94	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄褐)	
95	4	深鉢	胴～底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
96	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
97	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	7.5YR6/2(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
98	4	深鉢	口縁～頸部	沈線文・微隆帯・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(褐灰)	

第4表 縄文時代早期土器観察表③

報告書No.	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
99	4	深鉢	口縁部	沈線文・微隆帯・ナデ	キザミ目・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
100	4	深鉢	口縁部	刺突文・ナデ	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
101	4	深鉢	口縁部	微隆帯・沈線文・連点文	キザミ目・ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
102	4	深鉢	口縁～頸部	沈線文・連点文	キザミ目・ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	
103	4	深鉢	口縁部	微隆帯・沈線文・連点文	キザミ目・ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
104	4	深鉢	口縁部	微隆帯・沈線文・連点文	キザミ目・ミガキ	7.5YR5/3(にぶい褐)	2.5Y4/1(黄灰)	
105	4	深鉢	口縁部	沈線文・微隆帯	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
106	4	深鉢	胴部	燃系文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	
107	4	深鉢	胴部	燃系文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
108	4	深鉢	胴部	燃系文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	2.5Y4/1(黄灰)	
109	4	深鉢	胴部	燃系文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	
110	4	深鉢	胴部	燃系文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
111	4	深鉢	胴部	燃系文・微隆帯にキザミ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
112	4	深鉢	胴部	燃系文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
113	4	深鉢	胴部	燃系文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
114	4	深鉢	胴部	燃系文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
115	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
116	4	深鉢	胴～底部	ナデ	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR7/1(明褐灰)	

第5表 縄文時代早期土製品計測分類表

報告書No.	出土層位	器形	文様及び調整		色調		長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
			外面	内面	外面	内面					
117	4	土製円盤	ナデ・未穿孔	ナデ・未穿孔	5YR5/4 (にぶい赤褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	(5.9)	5.8	1.2	(55.3)	
118	4	土製円盤	貝殻条痕文 未穿孔	ナデ・未穿孔	10YR5/3 (にぶい黄褐)	10YR5/3 (にぶい黄褐)	7.2	6.8	1.5	82.0	
119	4	土製円盤	貝殻条痕文 未穿孔	ナデ・未穿孔	7.5YR6/4 (にぶい橙)	10YR5/2 (灰黄褐)	7.2	7.3	1.6	90.0	
120	4	耳栓	ナデ	キザミ・ナデ	5YR5/3 (にぶい赤褐)	10YR5/2 (灰黄褐)					復元径9.3cm

() の値は残存値を示す

第6表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
121	207	細石刃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	1.25	0.65	0.2	0.1 _{以下}	
122	208	細石刃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	0.75	0.2	0.1 _{以下}	
123	222	打製石鏃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.1)	(1.4)	0.3	0.1 _{以下}	1類 先端・脚部欠損
124	228	打製石鏃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.25)	(1.5)	0.45	(0.5)	1類 先端・脚部欠損
125	218	打製石鏃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	(1.0)	0.3	(0.2)	2類 脚部欠損
126	227	打製石鏃		4	チャート	1.85	(1.4)	0.3	(0.4)	3類 脚部欠損
127	215	打製石鏃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	(1.2)	0.3	(0.4)	3類 脚部欠損
128	219	打製石鏃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	(2.2)	1.8	0.4	(0.6)	3類 先端部欠損
129	230	打製石鏃		4	黒曜石(桑ノ木津留)	(2.0)	(1.1)	0.3	(0.4)	3類 先端・脚部欠損
130	217	打製石鏃未製品		4	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.25	0.45	1.0	4類
131	229	石匙		4	頁岩	4.8	1.6	1.1	4.3	
132	220	スクレイパー		4	頁岩	8.9	7.7	2.2	138.6	
133	206	スクレイパー		4	砂岩	7.3	4.0	1.3	38.9	
134	226	石錐		4	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.65)	(1.7)	0.6	(1.1)	錐部欠損
135	225	石錐		4	黒曜石(桑ノ木津留)	2.0	1.6	0.3	0.6	石鏃未製品の可能性あり
136	221	敲石		4	砂岩	8.9	6.1	3.3	232.3	
137	223	磨石		4	尾鈴山酸性岩	(6.6)	(9.0)	6.2	(490.3)	側面に敲打痕あり
138	224	敲石		4	砂岩	13.6	10.6	2.3	408.0	

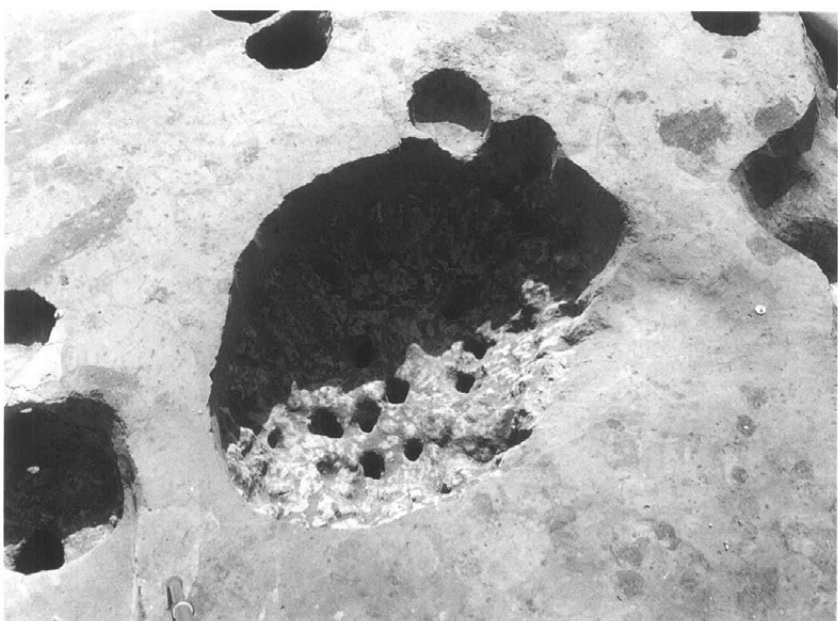
() の値は残存値を示す



S I - 2 2

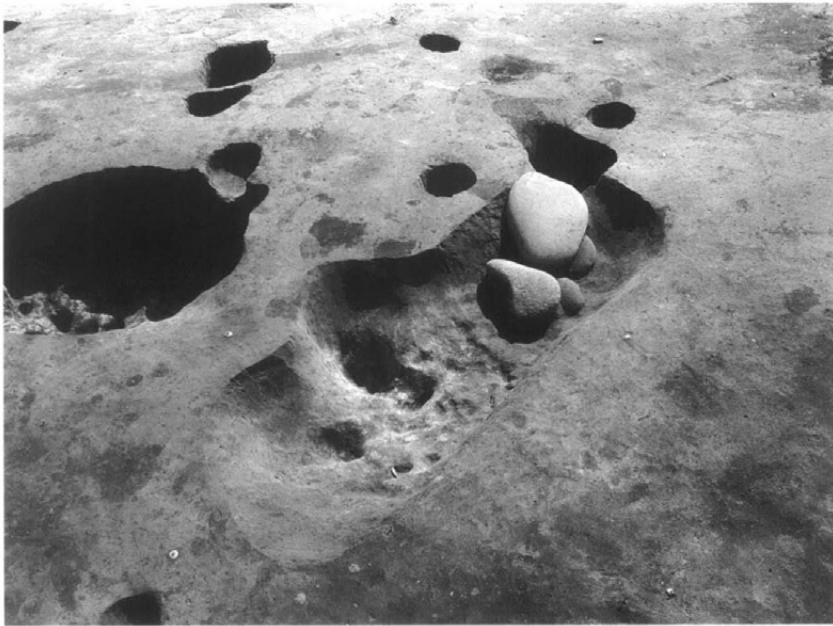


S I - 2 5



S C - 2 0

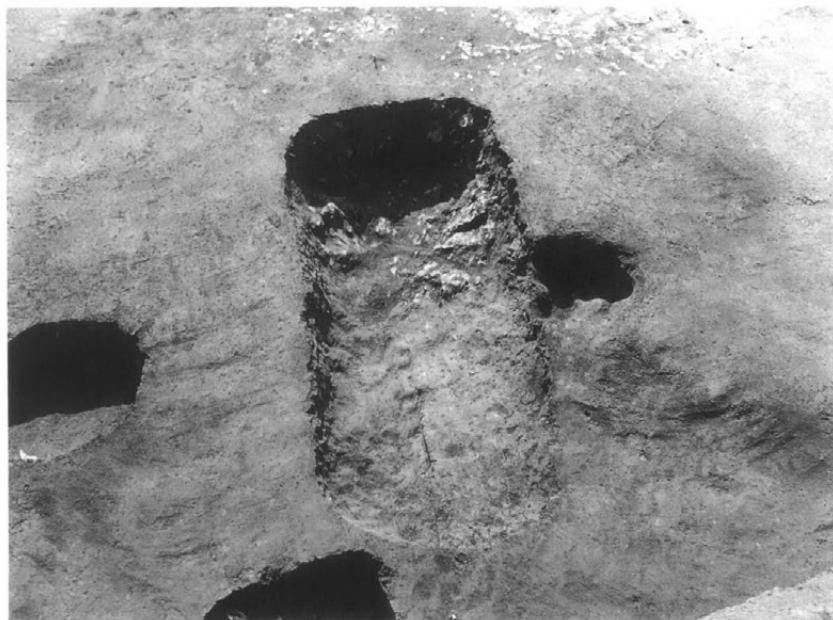
写真図版 3 縄文時代早期遺構①



SC-21

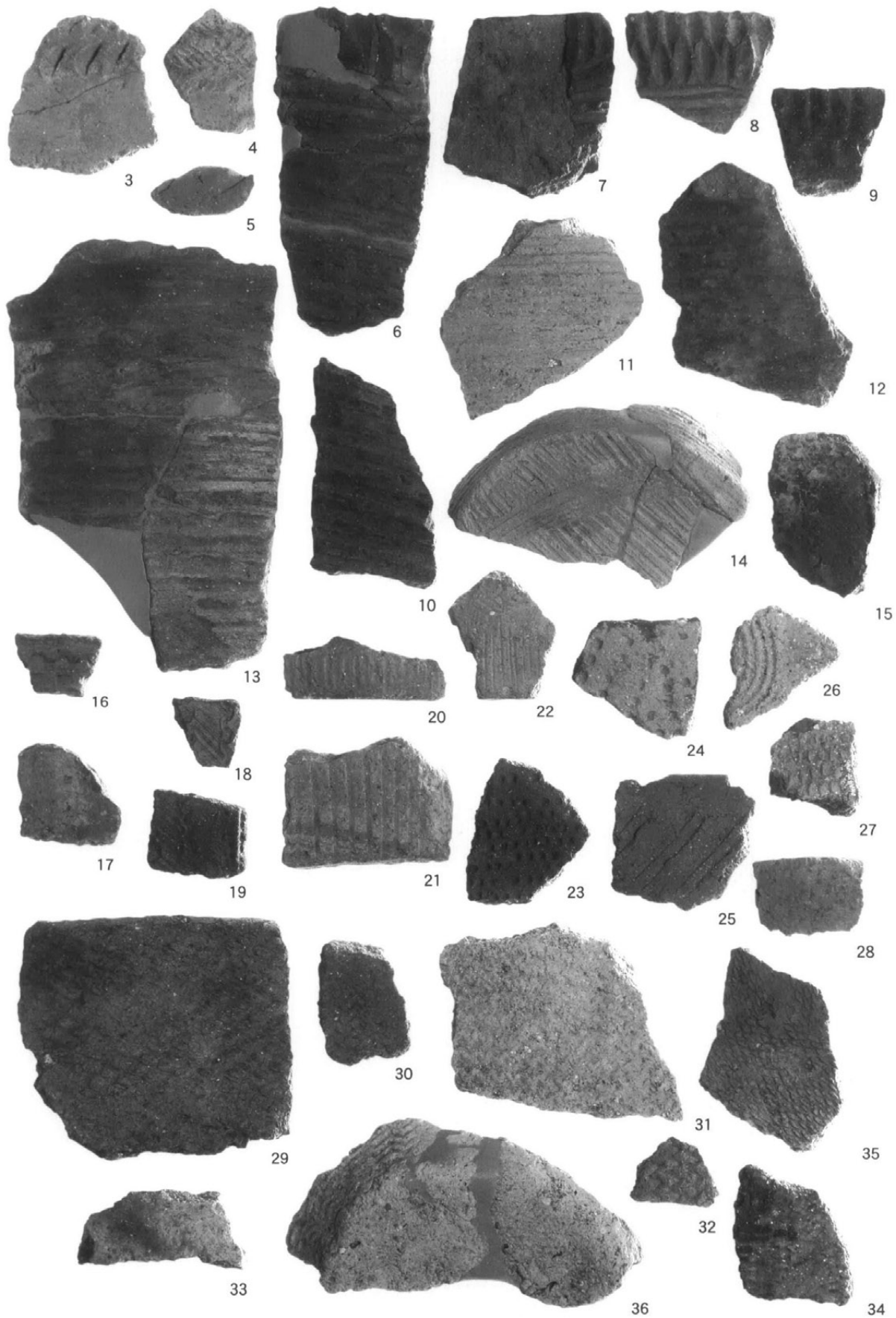


SC-21 土層断面

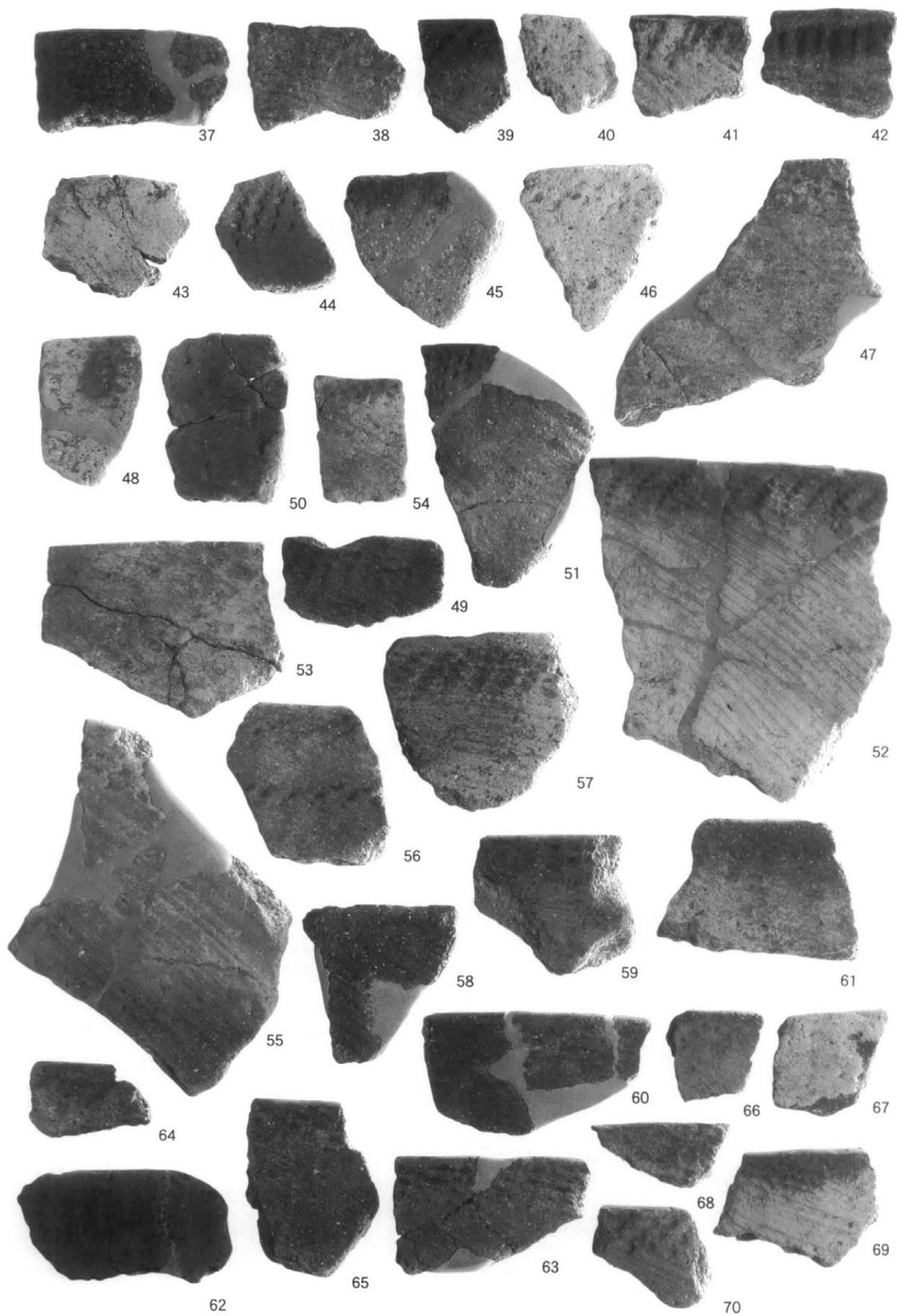


SC-26

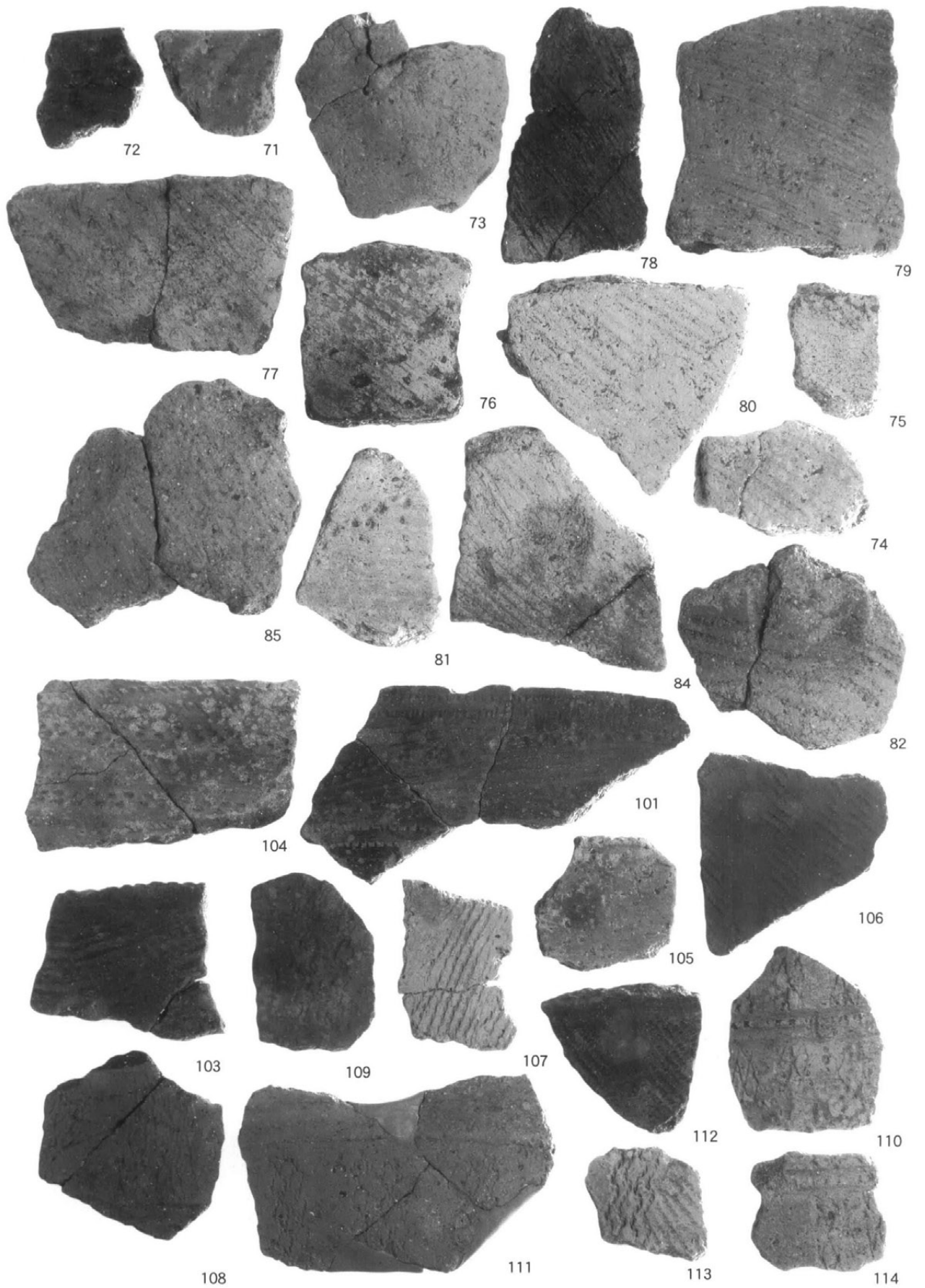
写真図版4 縄文時代早期遺構②



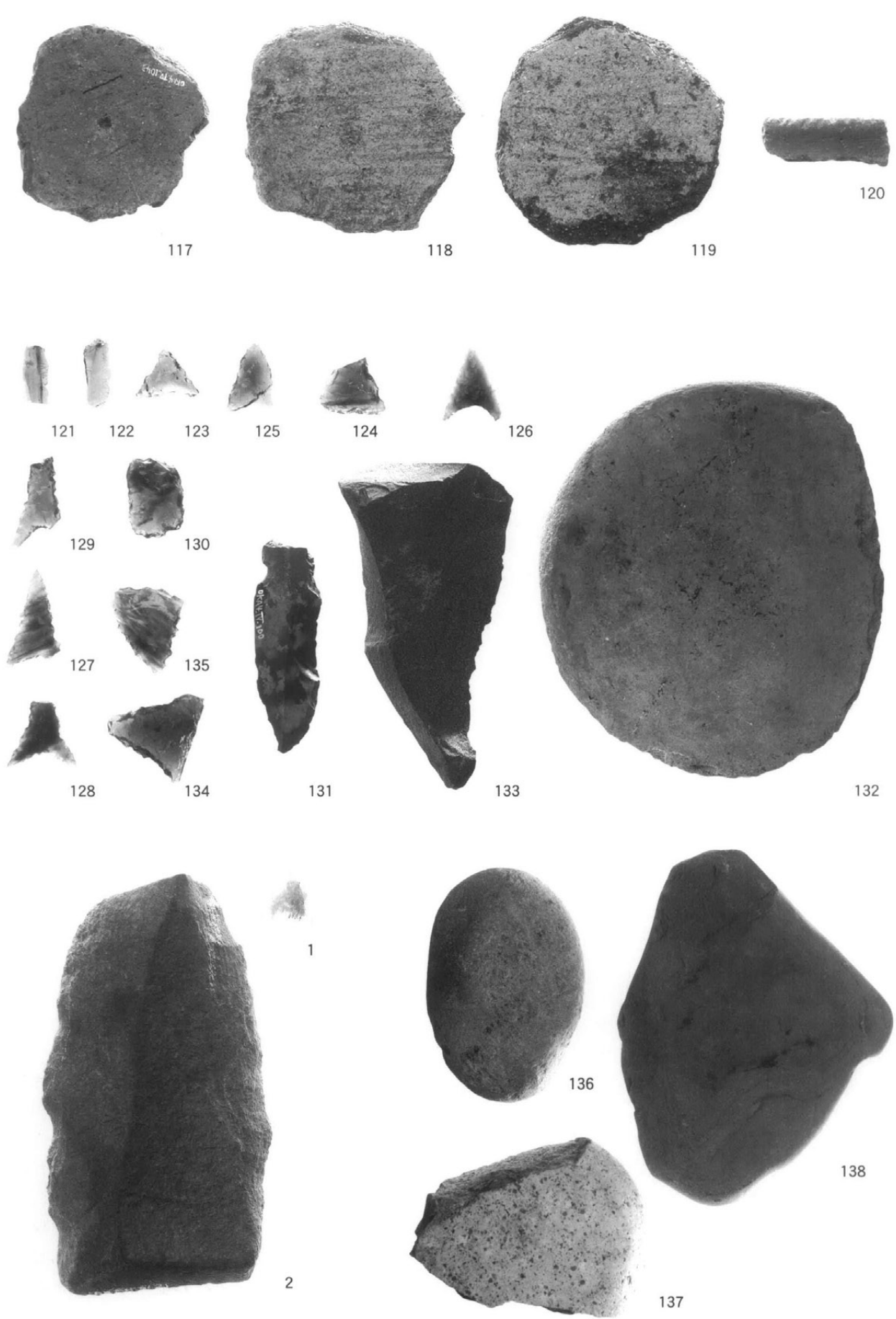
写真図版 5 縄文時代早期遺物包含層出土土器①



写真図版 6 縄文時代早期遺物包含層出土土器②



写真図版 7 縄文時代早期遺物包含層出土土器③



写真図版 8 縄文時代早期遺物包含層出土遺物

第4章 縄文時代前期以降の調査

第1節 縄文時代の前期から中期の遺構と遺物について

縄文時代前期～中期にかけての集石遺構1基と土坑17基が調査区の東側の斜面付近で検出された。また西側の斜面で同時期のものと考えられる土坑1基が検出された。これらの土坑は検出時においては明瞭に平面プランを確認することができたが、残存状況が悪く遺構の深さが数cmしかないというものも多かった。なお土坑群に共通する特徴として埋土中に顔料のような赤褐色の石（水に濡れると壊れやすい特徴がある）が混入する点あげられる。これは縄文早期や古代の遺構にはなかった特徴であり、時期決定できるような出土遺物がなかった遺構についてもこのことを時期決定の根拠としている。以下に残存状況の良かった遺構を中心に報告を行う。

1. 集石遺構

SI-6は縄文前期～中期の土坑と考えられるSC-35・36を切る形で検出されたため、縄文中期以降の集石遺構である。礫の範囲が1.11m×0.9mで、比較的大振りな礫が使用されており、1.25m×1.15mの不整円形プランの掘り込みの中には礫がぎっしりと詰まっていたが底石はなかった。掘り込み内の礫の総数は333個、総重量が84.9kgであった。なお掘り込みの深さは検出面から0.38mを測る。掘り込みには西側にテラスが部分的に二段になっていた。出土遺物は掘り込みの中の礫の上のほうから尾鈴山酸性岩製の可能性のある凝灰岩を使用した打製石鏃（1）が1点出土している。

2. 土坑

SC-1は1.55m×0.9mの不整楕円形プランの土坑で検出面からの深さは0.9mを測る。検出面から床面までの長軸方向の間にテラス部分があった。検出面より床面は窄まる様な形状であった。床面の一部にシラス台地ではよく見受けられる水の抜けた穴（通称：水穴）があり、床面に関しては本来の形が崩れていた可能性がある。出土遺物は条痕土石器（轟A式：4・5）と別府原式土器片、桑ノ丸式土器片、打製石鏃（2）と打ち欠き石錘（3）、鹿児島県産黒曜石製と流紋岩製の剥片が1点ずつ出土している。

SC-14は1.08m×1.02mの不整形な凸形のプランの土坑で検出面からの深さは0.38mを測る。一部にテラスがあり、本遺構の東側に土器片などが床面より約15cm浮いた状態で集中して出土した。出土状況を図示した遺物と共に埋土中より砂岩製剥片1点、流紋岩製石核1点、内面に条痕を施す土器片（6）や宮ノ迫式土器に該当する土器片（7～11）など多数出土している。

SC-15は1.37m×0.78mの不整楕円形プランの土坑で検出面からの深さは0.32mを測る。北側にテラスがあった。埋土中より桑ノ木津留産黒曜石製剥片1点と砂岩製の敲石が1点出土している。

SC-16は1.3m×0.96mの卵形プランの土坑で検出面からの深さは0.52mを測る。埋土中より宮ノ迫式土器に該当する土器片（12・13）や桑ノ木津留産や鹿児島県産の黒曜石製剥片が合わせて3点、砂岩の円礫を使用する敲石1点が出土している。

SC-17は東側を攪乱されていたため、本来の形状ははっきりしないがおそらく直径1.32mの不整円形プランの土坑で、検出面からの深さは0.36mを測る。埋土中より宮ノ迫式土器に該当する土器片と古代の土師器片、別府原式土器片、砂岩製の剥片と桑ノ木津留産黒曜石製剥片が2点ずつ出土している。

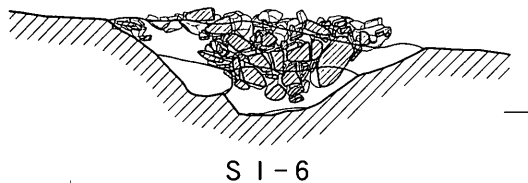
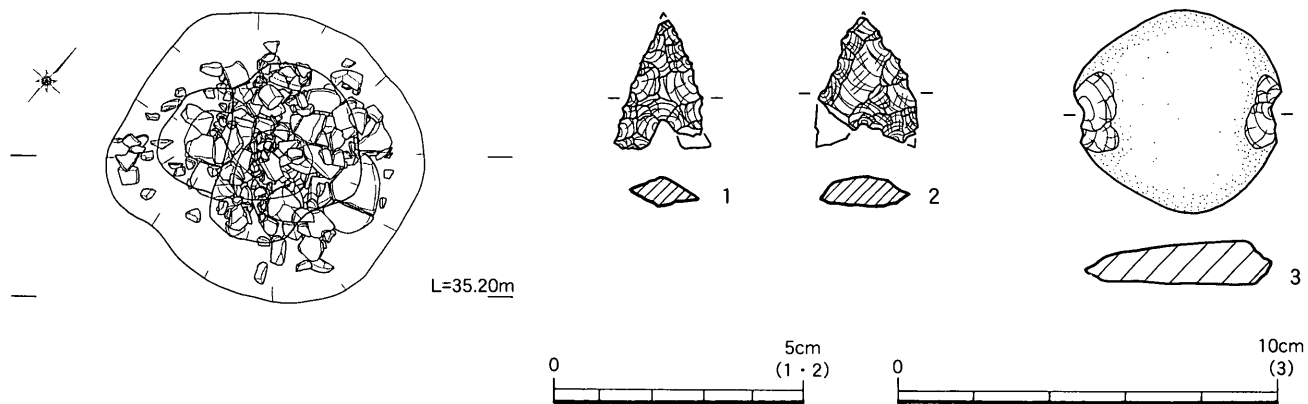
SC-13・28・30は3基の土坑の切り合いである。切り合い関係は土層観察からSC-30→28→13の順で掘り込まれていたようである。SC-13は1.32m×0.95mの不整楕円形プランの土坑で検出面からの深さは1.22mを測る。床面には水穴が開いており、SC-1同様本来の形状を残していない可能性もある。西側にテラスを一段設ける。埋土中より宮ノ迫式土器に該当する土器片（14～22・27）、縄文土器の底部片（23～25）、25は底部外面に網代圧痕が確認される。切り目石錘1点、砂岩製剥片7点、西北九州産黒曜石製剥片1点、頁岩製剥片5点、砂岩の円礫を使用する敲石1点、別府原式土器片が出土している。SC-28は0.8m×0.55mの楕円形プランの土坑で検出面からの深さは0.63mを測る。埋土中より縄文土器の碎片、砂岩製剥片1点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片2点、砂岩製磨石1点、尾鈴山酸性岩製の磨石2点が出土している。SC-30は1.3m+α×0.77mの不整楕円形プランの土坑で検出面からの深さは0.1mを測る。遺物は出土していない。



白抜き部分は攪乱を示す
黒い部分は未掘部分

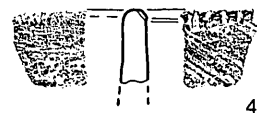


第16図 縄文時代前期以降の遺構配置図 (S=1/250)

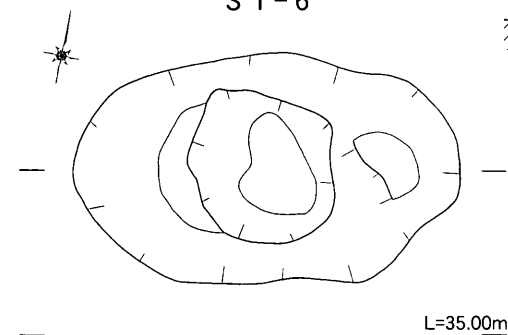


S I-6

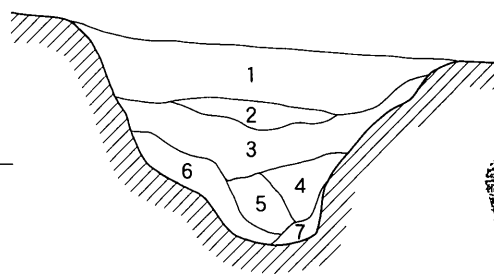
L=35.00m



4



L=35.00m



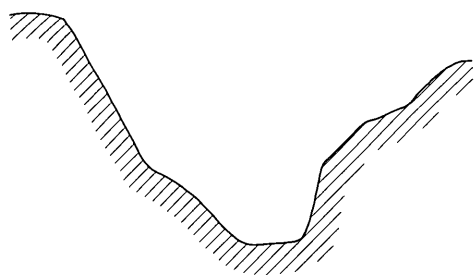
SC-1 土層断面



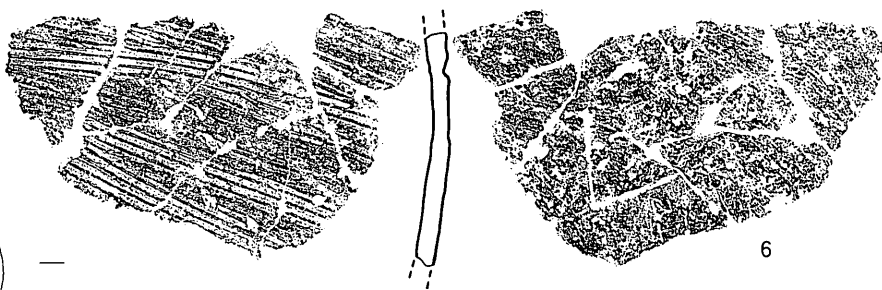
5

- 1 暗褐色砂質ローム層 (Hue10YR3/4)
- 2 黄褐色ローム層 (Hue10YR3/3)
- 3 にぶい黄褐色ローム層 (Hue10YR4/3)
- 4 褐色砂質ローム層 (Hue10YR4/4)
- 5 褐色ローム層 (Hue10YR4/4)
- 6 黒褐色ローム層 (Hue10YR3/2)
- 7 灰黄褐色ローム層 (Hue10YR4/2)

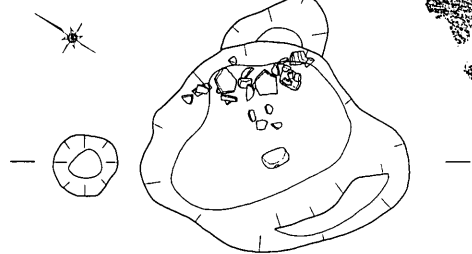
※全ての層にシラスのブロックが含まれており、特に3層と5層には多く含まれていた。



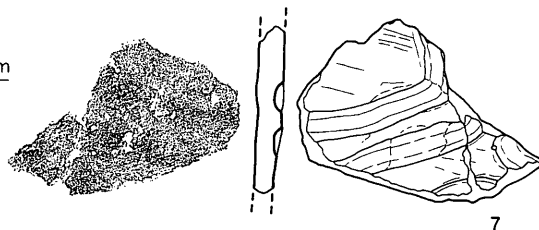
SC-1



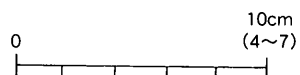
6



L=35.00m

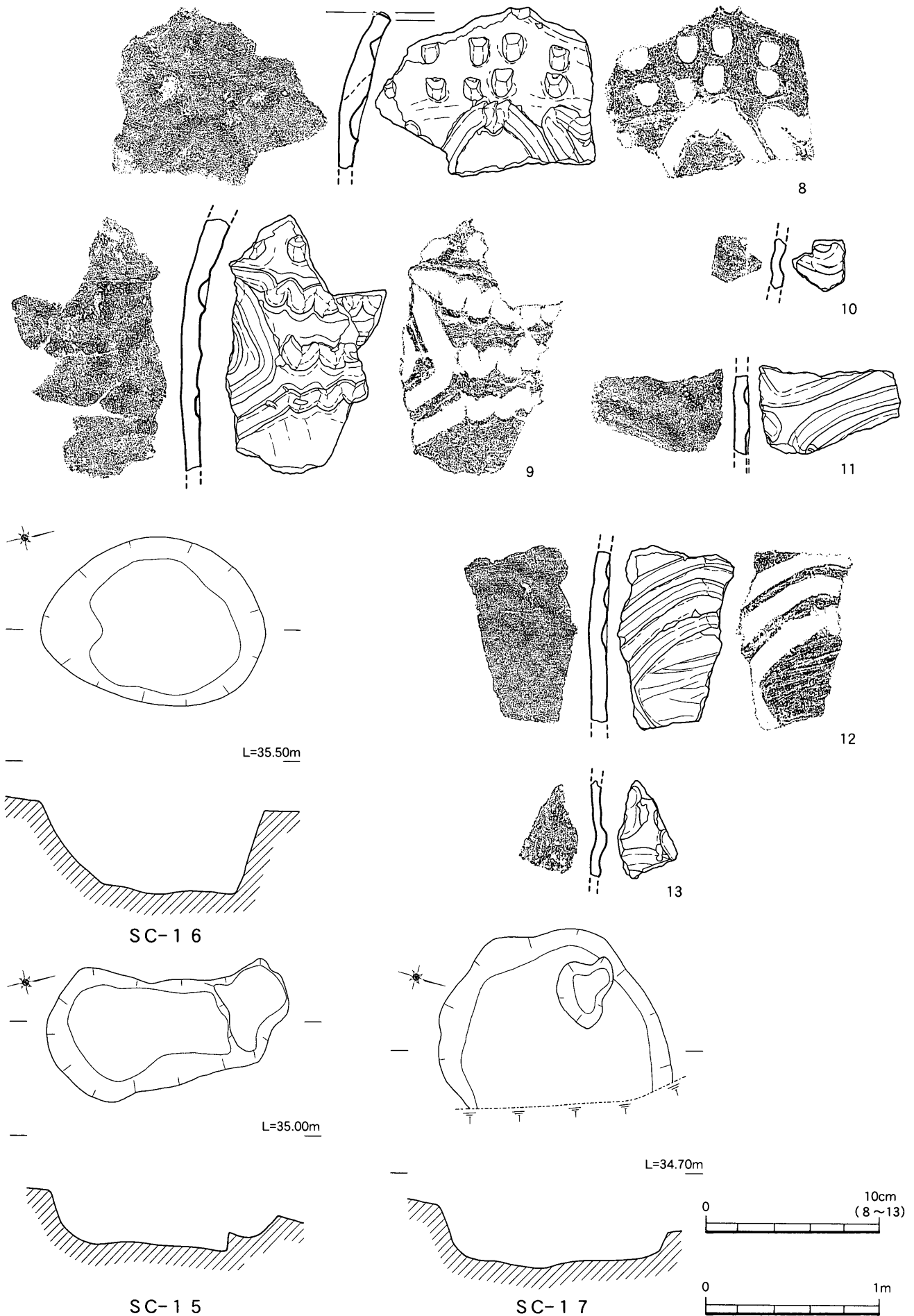


7

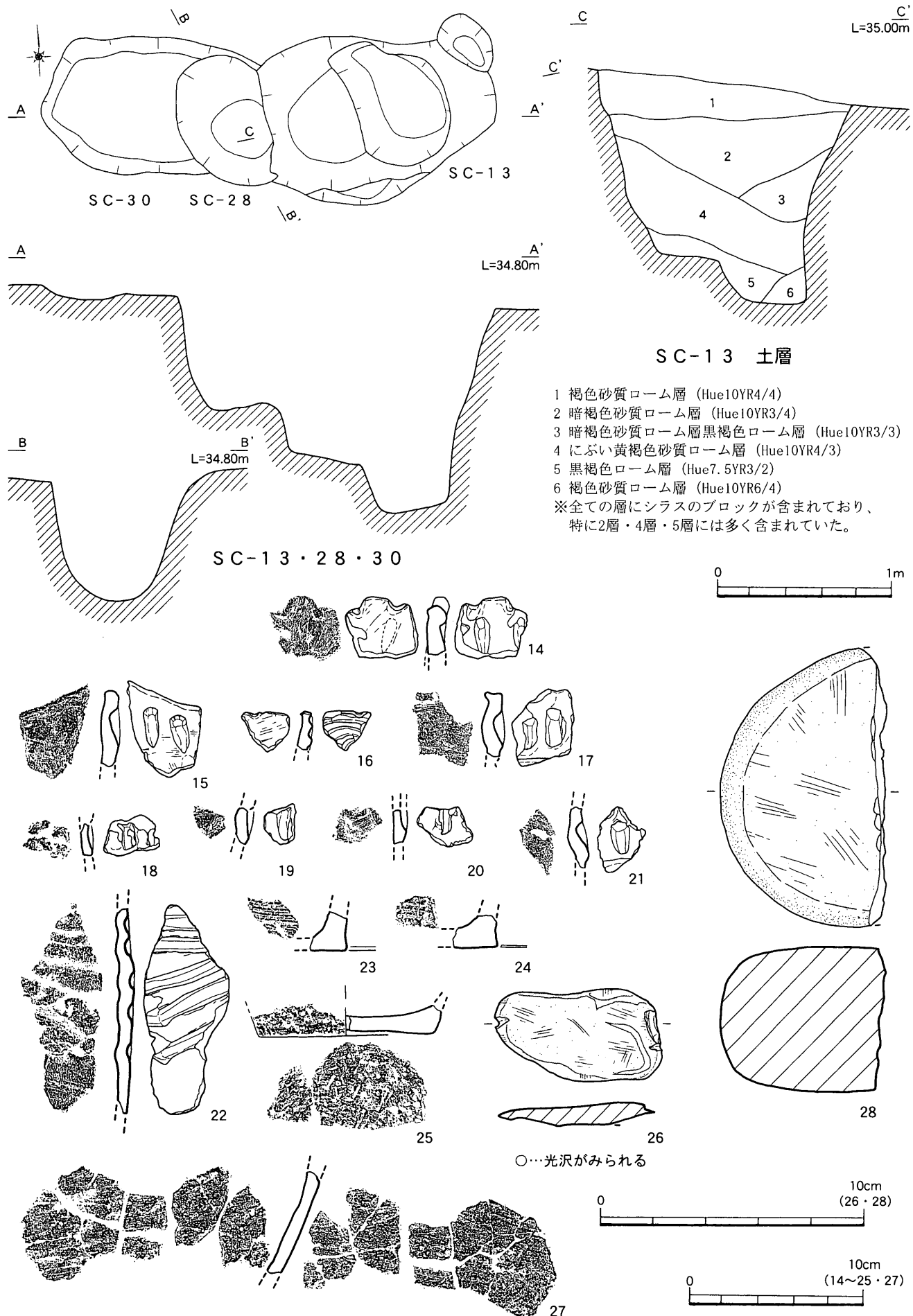


SC-14

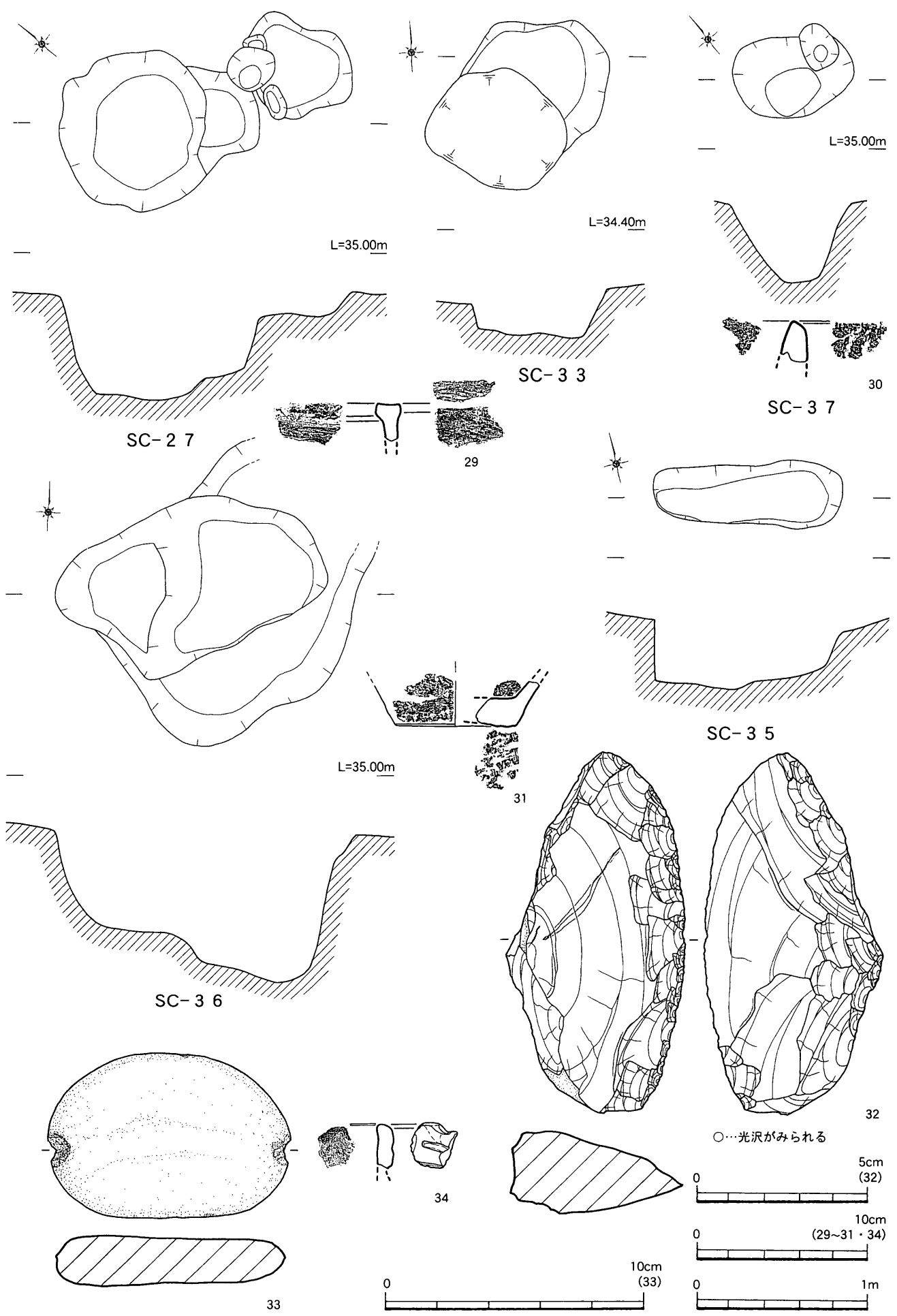
第17図 縄文時代前期・中期遺構・遺構内出土遺物実測図 (S=1/30 2/3 1/3 1/2)



第18図 縄文時代中期遺構・遺構内出土遺物実測図① (S=1/30 1/3)



第19図 縄文時代中期遺構・遺構内出土遺物実測図② (S=1/30 1/3 1/2)



第20図 縄文時代中期遺構・遺構内出土遺物実測図③ (S=1/30 1/3 1/2 2/3)

第7表 縄文時代前期・中期遺構内出土土器観察表

報告書No.	出土位置	器形	部位	文様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
4	SC-1	深鉢	口縁部	刻み目・貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	
5	SC-1	深鉢	口縁部	刻み目・貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
6	SC-14	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
7	SC-14	深鉢	胴部	凹線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
8	SC-14	深鉢	口縁部	刺突文・凹線文・刻み目	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
9	SC-14 SC-16	深鉢	胴部	刺突文・凹線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
10	SC-14	深鉢	胴部	凹線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
11	SC-14	深鉢	胴部	凹線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
12	SC-16	深鉢	胴部	凹線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
13	SC-16	深鉢	胴部	凹線文	ナデ	10YR5/8(黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
14	SC-13	深鉢	口縁部	刻み目・刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
15	SC-13	深鉢	口縁部	刺突文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	
16	SC-13	深鉢	口縁部	刻み目・沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	2.5Y4/1(黄灰)	
17	SC-13	深鉢	口縁部	刻み目・刺突文・凹線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
18	SC-13	深鉢	胴部	刺突文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
19	SC-13	深鉢	胴部	刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
20	SC-13	深鉢	胴部	刺突文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
21	SC-13	深鉢	胴部	刺突文・刻み目	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
22	SC-13	深鉢	胴部	凹線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
23	SC-13	深鉢	底部	不明	貝殻条痕文	5YR5/4(にぶい赤褐)	2.5YR4/1(赤灰)	
24	SC-13	深鉢	底部	不明	貝殻条痕文	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/3(褐)	
25	SC-13	深鉢	底部	条痕文・網代圧痕	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
27	SC-13	深鉢	胴部	条痕文後ナデ・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR6/4(にぶい橙)	
29	SC-27	深鉢	口縁部	条痕文後ナデ	条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
30	SC-37	深鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
31	SC-36	深鉢	底部	ナデ・網代圧痕	ナデ	5YR4/2(灰褐)	2.5Y4/1(黄灰)	
34	SC-8	深鉢	口縁部	刻み目・沈線文	ナデ	5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	

第8表 縄文時代前期・中期遺構内出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土位置	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
1	212	打製石鏃	SI-6	凝灰岩	(2.5)	(1.8)	0.55	(1.6)	先端・脚部欠損
2	210	打製石鏃	SC-1	黒曜石(西北九州)	(2.5)	(2.0)	0.5	(1.8)	脚部欠損
3	202	石錘	SC-1	砂岩	5.3	5.4	1.15	43.9	
26	204	石錘	SC-13	頁岩	3.5	6.55	0.95	26.9	表面に光沢あり
28	211	磨石	SC-28	尾鈴山酸性岩	(10.6)	(6.3)	(5.45)	543.7	
32	216	スクレイパー	SC-36	緑色堆積岩	10.4	5.2	2.4	119.7	両面に光沢あり
33	205	石錘	P401	砂岩	6.3	9.4	1.9	159.2	敲打による凹みあり

()の値は残存値を示す

SC-27は1.17m×0.92mの南東部に突出部をもつ不整形な円形プランの土坑で、検出面からの深さは0.59mを測る。SA-3の調査終了後の床面にて検出された。また周囲には同時期の残存状況が悪い土坑が3基存在しており、そのうち2基とは切り合い関係にあった。埋土中より内外面に突出部を持つ縄文土器の口縁部片(29)、頁岩製剥片1点、砂岩製剥片1点、桑ノ木津留産黒曜石製砕片5点、図示できなかったが桑ノ木津留産黒曜石に自然面が似ているが白色の混入物が多く見られる産地不明の黒曜石製の剥片1点が出土している。

SC-33は唯一調査区西側の斜面で検出された土坑で南側を大きく削平を受けている。0.8m×0.6m+αの不整形円形プランで検出面からの深さは0.28mを測る。埋土中より縄文土器・土師器の小片が出土している。

SC-35はSI-6に切られる状態で検出された。1.1mかける0.4mの不整長楕円形プランの土坑で検出面からの深さは0.39mを測る。遺物は出土していない。

SC-36は北東部をSI-6に切られる状態で検出された。また遺構の南西側は風倒木痕による攪乱を受けており、本来の形状をとどめていなかったものと考えられる。現状では1.8m×1.8mの不整形なプランの土坑で南～東側に0.2m程度の広いテラスを有し、北西側に1.4m×1mの不整楕円形プランの堀込みが見られる。検出面からの深さは最深部で0.87mを測る。埋土中より宮ノ迫式土器に該当する土器片、やや上げ底状で網代圧痕の確認される底部片(31)、スクレイパー(32)1点、32はテラス部分から出土している。砂岩製剥片2点、西北九州産黒曜石製剥片1点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片1点が出土している。

SC-37はSA-3の床面に検出された粘土塊を除去した後、その真下において検出された。0.7m×0.4mの防いだ円形プランで検出面からの深さは0.45mを測る。埋土中より貝殻刺突文を施す口縁部片(30)、縄文土器の小片が出土している。

なお上記の遺構のほか、西側斜面のP-401(柱穴)から縄文土器の小片とともに砂岩製の打ち欠き石錘(33)が出土している。また東側斜面のP-8(柱穴)から縄文土器の口縁部片(34)が出土している。

第2節 古代の遺構と遺物について

竪穴住居跡(SA-3)

古代の遺構としては調査区中央のやや東側にて竪穴住居跡1棟が検出された。SA-3は一辺の長さが4.3m×4.07mの方形プランのカマド付きの竪穴住居跡である。検出面から床面までの深さは残存状況の良い部分でも0.1m程度であり、残存状況は非常に悪く、さらに本遺構の南側を試掘トレンチにより削平され、また中央東付近をSE-9によって削平されている。

床面には掘り込みの底を0.05m～0.1m程度を埋める貼り床が敷かれており、貼り床の面で3基の柱穴が確認された。また中央付近には直径0.6m、深さ0.1mの掘り込みを持つ炉が検出された。中央炉の端からカマドまでの直線距離は0.7mであるがその間の床面には焼土が検出されている。壁際には溝が検出されたが、西側～南西側の溝は貼り床を除去するまで明確にそのプランを確認することができなかった。なお南西側の溝の床面には小規模な凹みが多く確認された。東側の溝は貼り床の面にて概ねプランが確認できたものの、北側のコーナー部分から東側の中央付近にかけて布痕土器や椀・坏を中心とする土師器片が集中して出土した。この土師器片は壁際の溝の床面まで入り込んでおらず溝が埋まった後に残されたものと考えられる。

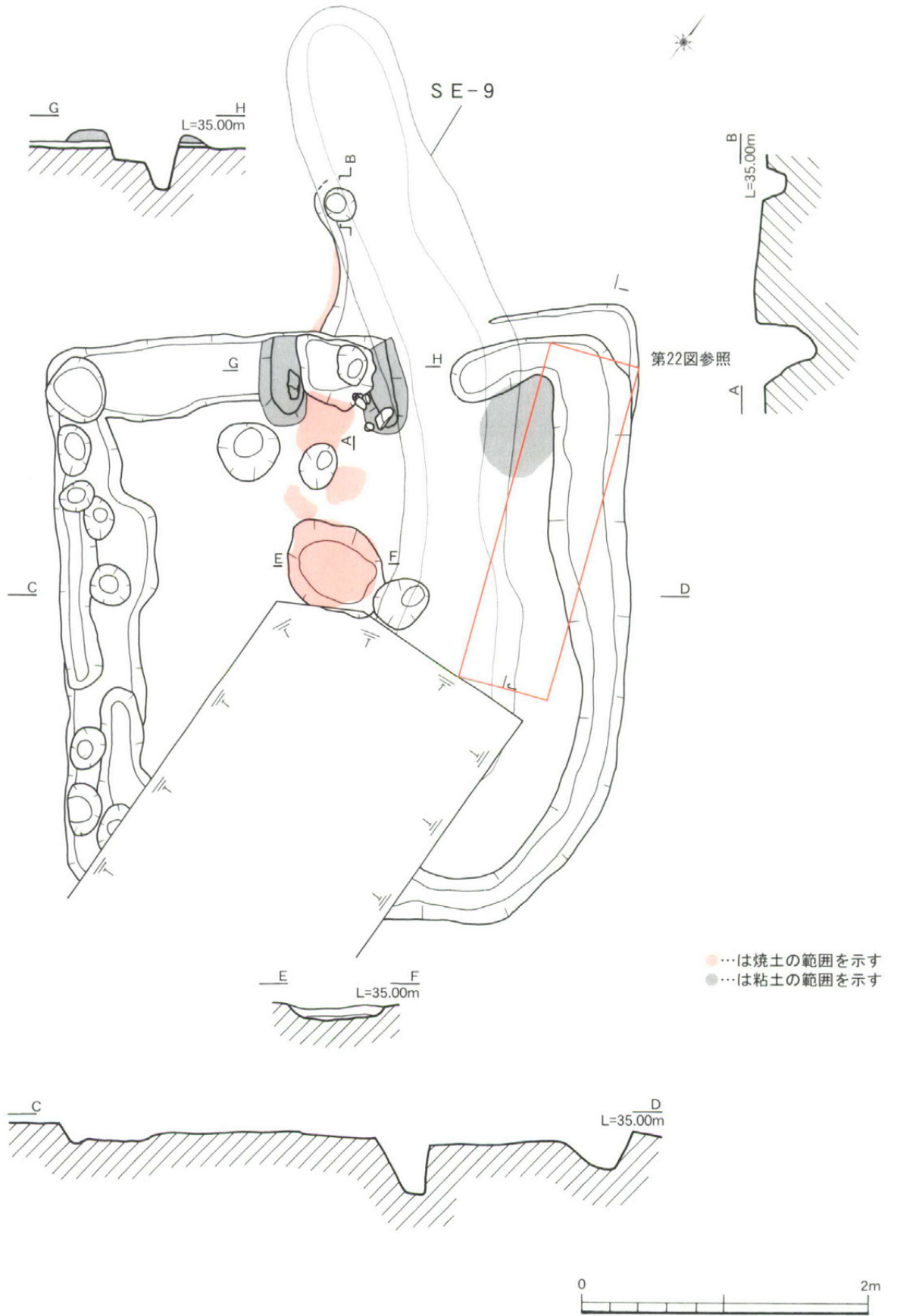
カマドは本住居跡の北東部の壁面中央付近に設置されていた。カマドは白色に赤色が少し混じるような色調の粘土によって造られており、その粘土の中には礫などが含まれていた。カマドの中心にはカマドの残存している部分からの深さが0.2m、床面の幅が0.4mの掘り込みがあり、その掘り込みの東側にはさらに0.2m×0.3mの楕円形プランの深さ0.15mの穴が掘りこまれていた。カマドの北東部分に残存している現状で長さ0.9m煙道があり、煙道の先端には直径0.22m、深さ0.12mの穴があった。煙道の西側の壁からは焼土が検出された。また本遺構の北側の隅にカマドを造ったものと同じような粘土の塊が検出されている。その下からは前述した縄文中期の土坑SC-37が検出された。

遺構の残存状況は悪かったがかなり多くの土師器片が埋土中より出土した。遺構の残存状況を考慮するとほとんどが床面から出土したものといえる。土師器片の中で最も多かったものは布痕土器である。そのほかに桑ノ木津留産黒曜石製剥片、砂岩製剥片、縄文早期・中期の土器片、古墳時代の土師器片などが出土している。

SA-3出土遺物(35～50)

48以外は全て北側のコーナー部分から東側の中央付近にかけての土器の集中部分から出土した資料である。35～44は椀・坏である。高台がついているものは一点も出土していない。45は甕の口縁部片、46・48は鉢の口縁部片、48・49は布痕土器の口縁部片、50は布痕土器の底部片である。

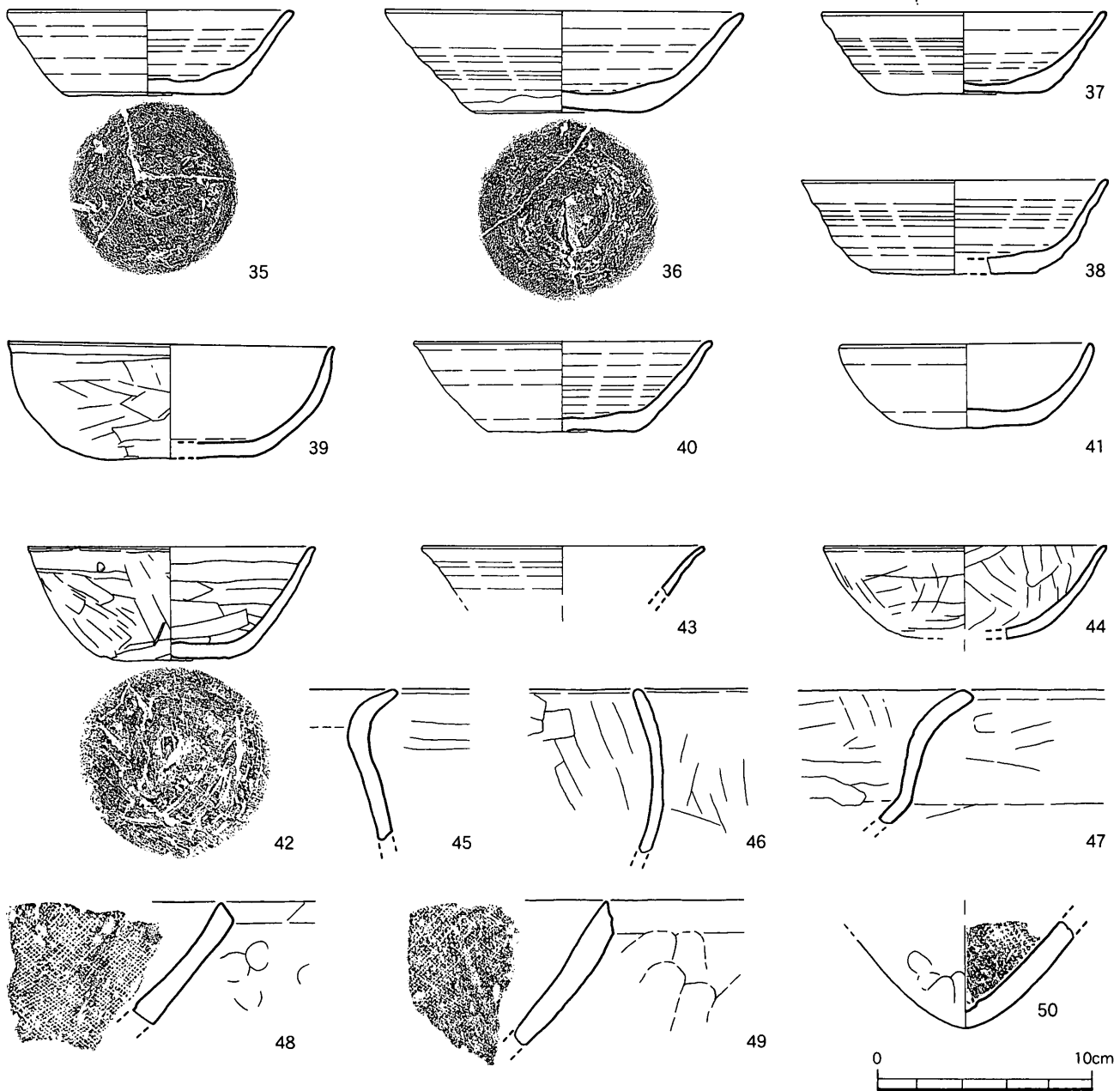
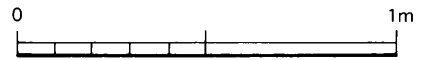
椀・坏は体部が回転ナデ調整、底部が回転ヘラ削りによって成形されるもの(35～38・40)と体部が回転ナデ調整後に不整方向のナデ調整、底部は不定方向の静止ヘラ削りによって成形されるもの(39・41・42・44)との大きく二種類に分けられる。42は底部のヘラ削りも著しく、底部に針の穴程度の穿孔がある。また色調も42だけがにぶい橙色で全体的に白っぽく、それ以外は全て赤褐色～橙色を呈している。39・41は二次的な焼成を受けているためであろうか一部が赤化している。



第21図 SA-3実測図 (S=1/40)



第22図 SA-3遺物出土状況図 (S=1/20)



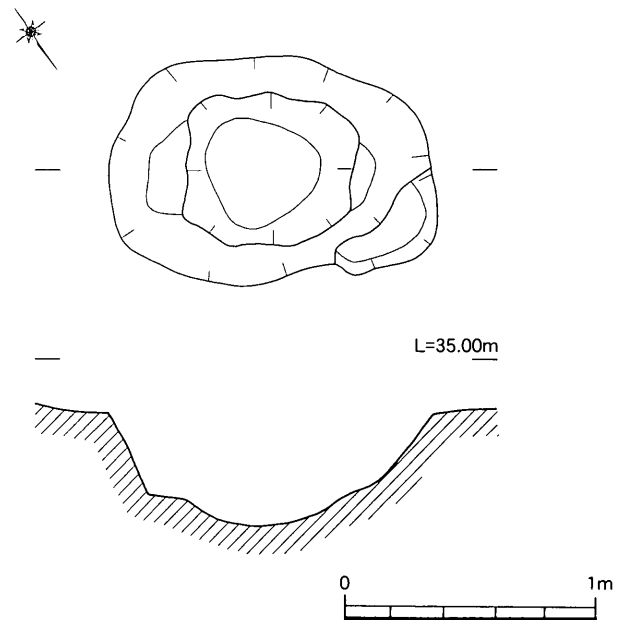
第23図 SA-3出土土師器実測図 (S=1/3)

第3節 その他の時代の遺構と基本層序3層の出土遺物について

本書の第2・3章及び第4章の第1・2節において帰属時期がはっきりわかる遺構を報告してきた。しかし岡第4遺跡ではこれらの他に帰属時期がはっきりしない土坑や掘立柱建物跡などが検出されている。また調査区の東側と西側において部分的に縄文時代中期～古代の遺物の包含層である基本層序3層が残存している部分があり、そこの掘り下げを調査期間終了時までに行い、遺物を取り上げた。それらの報告を本節で行う。

1. 土坑

SC-19は調査区の中央付近よりやや北側で検出された。1.29m×0.9mの不整楕円形プランで検出面からの深さは0.44mを測る。検出面から床面にいたる途中にテラスがあり、形態的には前章で報告した縄文時代前期～中期の土坑の中に類似しているものがあつたものの、遺構内の埋土は黒色土で、前述した特徴的な赤褐色の石の混入も見られず、また出土遺物が砂岩礫を使用する磨石だけであることから帰属時期が判明しなかつた土坑である。縄文前期～中期の土坑群とも分布が少し離れる点も同時期の遺構ではないという判断となつた。



第24図 SC-19実測図 (S=1/30)

2. 掘立柱建物跡

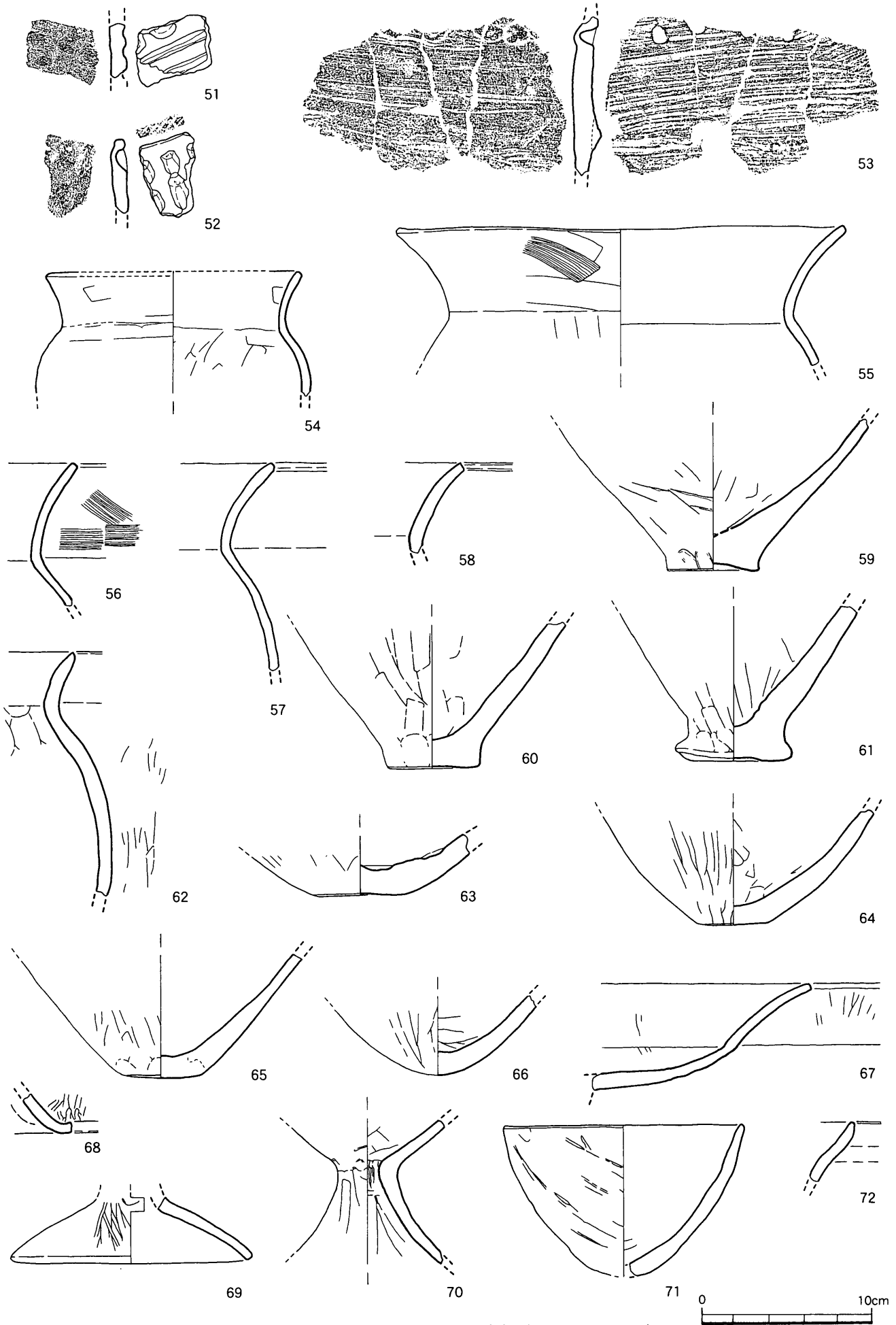
岡第4遺跡では多くの柱穴が検出されており、その一部については平面図上で方形に並ぶものも確認されており、掘立柱建物跡を構成するものがあつた。柱穴からの出土遺物は近世～近代の陶磁器片が最も多い。また本調査に入る前の確認調査においても近世～近代にかけての陶磁器が数多く表採されており、掘立柱建物跡の時期はおそらく多くが近世～近代に当てはまるものと考えられる。調査中には掘立柱建物跡は5棟しか把握できなかったが、整理作業中の検討によって新たに3棟の掘立柱建物跡が存在することがわかつた。第10表にその規模等については示している。更なる検討によつてもっと多くの掘立柱建物跡の存在が確認されると考えられる。

SB-50・51は調査区の西側に位置する。これらの掘立柱建物西側は調査区外にまで及ぶため全貌は明らかにならなかつたが、他の掘立柱建物と柱穴の規格や建物全体の規模が大きいことが注目される。

3. 第3層出土遺物

51・52は宮ノ迫式土器に該当する土器片である。刺突文や凹線文で施文し、外面の施文が内面にまで浮き出ている。53は孔列文土器である。外面に未貫通の連続刺突文を巡らす。内面にその影響を受け、こぶ状の突起が見られる。孔列文の約5cm下付近に一条の突帯を巡らす。内外面の調整は条痕である。

54～72は甕の形態、高杯の脚部の形態、小型丸底壺の存在などを考慮すると弥生時代終末から古墳時代初頭の土器である。54は小型の甕の口縁部で、頸部の屈曲は弱く口縁部は緩やかに外反する。55～58は中型甕の口縁部～胴部の破片である。頸部はいずれもシャープさを欠いた「く」の字状に屈曲し、口縁部は緩やかに外反するもので、口縁部外面には細かい刷毛目調整が施されている。また内面の調整はナデ調整である。59～61は甕の底部片である。59はやや上げ底、60は平底で61は端部を外側に張り出させる形状のものである。62は短頸壺の口縁部～胴部片である。63～66は壺の底部片である。63～65はやや丸みを帯びる平底で、66は丸底を呈する。67は長く外反する高杯の口縁部片である。68・69は高杯の脚部片である。69は裾部が丸くなっており円形の透かしがある。70は高杯の坏部～脚部片である。71は尖底状の鉢の破片であるが、図面上ではほぼ完全に復元できる。72は小型丸底壺の口縁部片である。二次的な焼成を受けているためか赤化が著しい。



第25図 縄文時代中期～古墳時代遺物実測図 (S=1/3)

第9表 縄文時代中期～古代の土器観察表

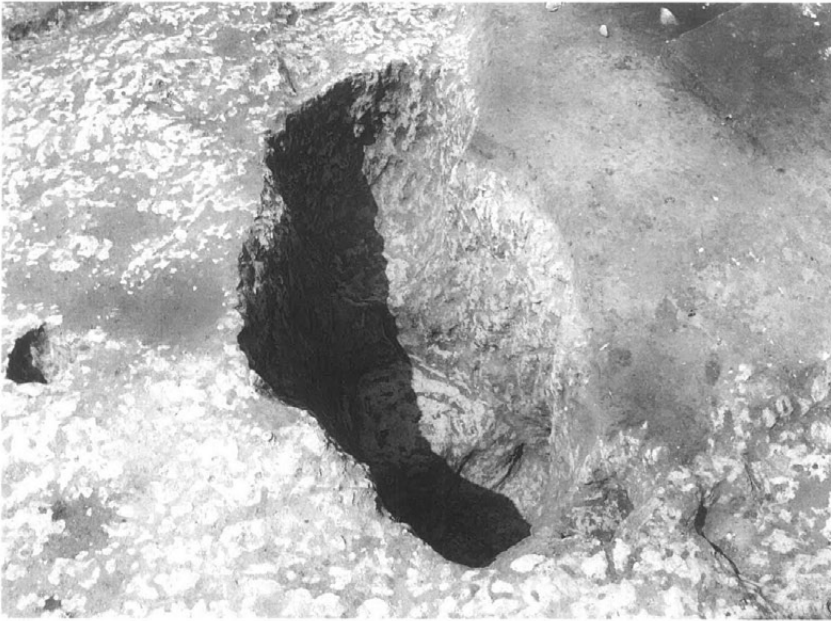
報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
35	SA-3	杯	口縁～底部	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/6(橙)	7.5YR5/4(にぶい橙)	
36	SA-3	杯	口縁～底部	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5YR6/6(橙)	2.5YR6/6(橙)	
37	SA-3	杯	口縁～底部	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	5YR5/4(にぶい赤橙)	
38	SA-3	杯	口縁～底部	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
39	SA-3	椀	口縁～底部	回転ナデ後ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい橙)	
40	SA-3	杯	口縁～底部	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
41	SA-3	椀	口縁～底部	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	5YR5/4(にぶい赤橙)	
42	SA-3	椀	口縁～底部	回転ナデ後ナデ 静止ヘラ削り・穿孔	回転ナデ後ヘラナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄橙)	黒変あり
43	SA-3	杯	口縁～胴部	回転ナデ	回転ナデ	5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/6(橙)	
44	SA-3	杯	口縁～底部	回転ナデ後ナデ	回転ナデ	5YR5/4(にぶい赤橙)	10YR5/4(にぶい黄橙)	
45	SA-3	壺	口縁～頸部	ヘラナデ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤橙)	5YR6/4(にぶい橙)	スス付着
46	SA-3	鉢	口縁部	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	2.5YR6/6(橙)	スス付着
47	SA-3	鉢	口縁～頸部	ナデ	ナデ・ヘラ削り	7.5YR7/4(にぶい橙)	10YR7/4(にぶい黄橙)	
48	SA-3	布痕土器	口縁～胴部	ナデ後指押え	布目圧痕	5YR5/4(にぶい赤橙)	7.5YR5/4(にぶい橙)	
49	SA-3	布痕土器	口縁～胴部	ナデ	布目圧痕	5YR5/4(にぶい赤橙)	5YR5/4(にぶい赤橙)	
50	SA-3	布痕土器	胴～底部	ナデ後指押え	布目圧痕	5YR6/6(橙)	7.5YR5/4(にぶい橙)	
51	3	深鉢	胴部	刺突文・凹線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい橙)	7.5YR5/2(灰橙)	
52	3	深鉢	口縁部	刻み目・刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
53	2	深鉢	胴部	条痕文・連点文	条痕文	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
54	3	壺	口縁～頸部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
55	3	壺	口縁～頸部	ハケ目・ナデ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤橙)	5YR5/6(明赤橙)	炭化物あり
56	3	壺	口縁～頸部	ハケ目・ナデ	ナデ	7.5YR4/3(橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	スス付着
57	3	壺	口縁～胴部	ハケ目・ナデ	ナデ	7.5YR4/3(橙)	7.5YR5/4(にぶい橙)	炭化物あり
58	3	壺	口縁部	ハケ目	ナデ	7.5YR5/2(灰橙)	5YR6/4(にぶい橙)	スス付着
59	3	壺	胴～底部	ナデ・指押え後ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい橙)	
60	3	壺	胴～底部	ナデ・指押え後ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	スス付着
61	3	壺	胴～底部	ナデ・ハケ目・指押え	削り後ナデ	7.5YR5/3(にぶい橙)	5YR5/4(にぶい赤橙)	
62	2・3	壺	口縁～胴部	ナデ	ナデ・指押え	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい橙)	
63	3	壺	底部	工具による削り	ナデ・指押え	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR4/1(褐灰)	
64	3	壺	胴～底部	ミガキ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	スス付着
65	3	壺	胴～底部	ナデ・指押え後ナデ	ナデ	5YR6/6(橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	
66	3	壺	底部	ミガキ	削り後ナデ	N-4(灰)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
67	2・3	高杯	口縁部	ミガキ	ミガキ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
68	3	高杯	脚部	ミガキ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
69	3	高杯	脚部	ミガキ	ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	円形の透かし有り
70	3	高杯	杯～脚部	ナデ	しぼり後ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい橙)	
71	2・3	鉢	口縁～底部	削り後ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	スス付着
72	2	小型丸底甕	口縁部	ナデ	ナデ	2.5YR6/6(橙)	2.5YR5/6(明赤橙)	

第10表 掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	梁行・桁行		床面積 (㎡)	柱穴の直径 (cm)	出土遺物
SB-42	2間×3間	4m×6.15m	24.6	25～45	土師器片・陶磁器片
SB-50	2間×3間	4.5m×5.75m	25.875	40～65	白磁片
SB-51	2間×4間	3.85m×8.1m	31.185	50～80	鉄製品・白磁片・土師器片
SB-52	2間×3間	3.5m×5.75m	20.125	30～55	
SB-53	2間×4間	2.9m×6.35m	18.415	30～60	
SB-54	1間×4間	2.35m×4.5m	10.575	22.5～30	
SB-55	1間×4間	2.8m×4.9m	13.72	35～45	
SB-56	2間×2間	2.35m×4.1m	9.635	25～35	



SC-1



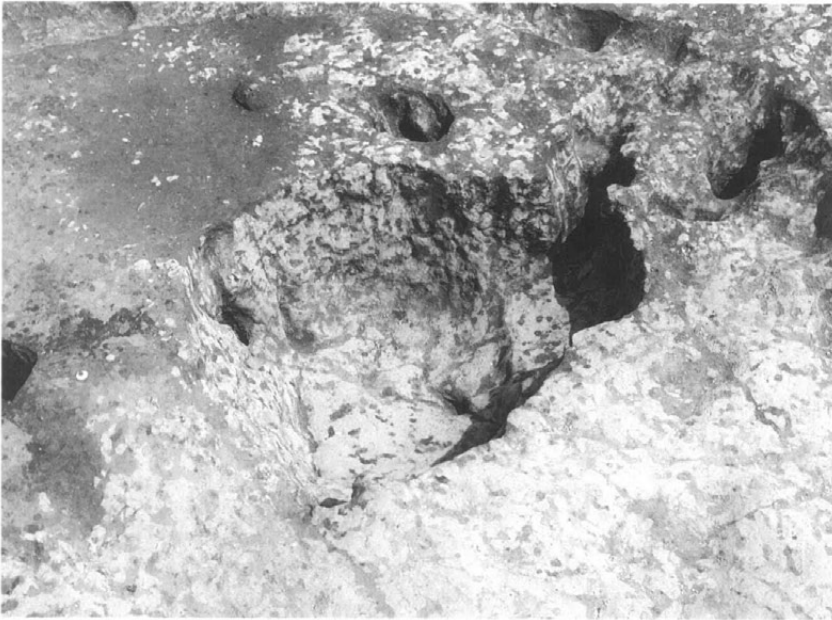
SC-13・28・30



SC-16 土層断面



SC-16



SC-27



SC-27 土層断面



SC-36



調査区西側土師器出土状況



SA-3



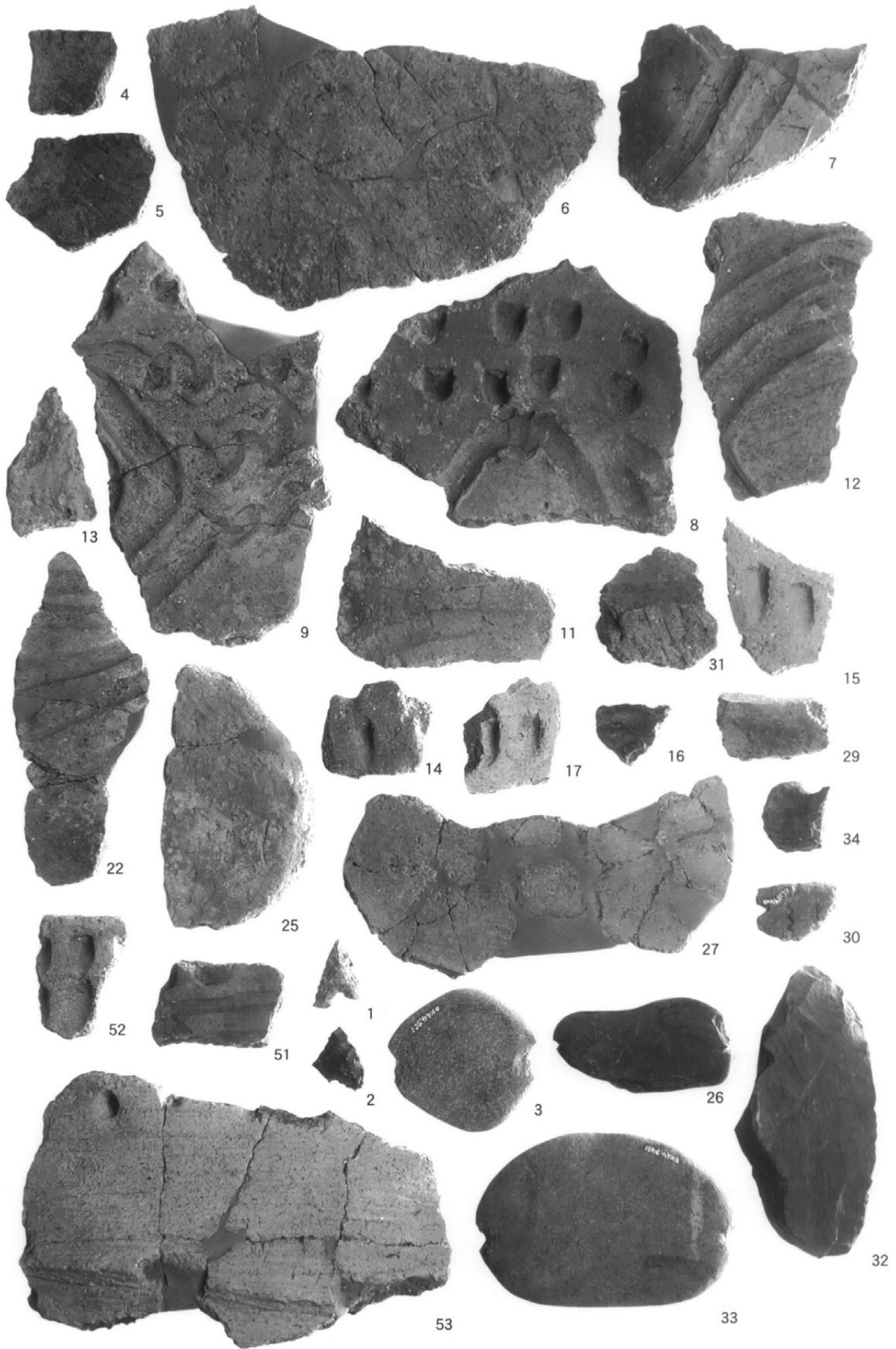
S A-3 東側土器出土状況



S A-3 カマド



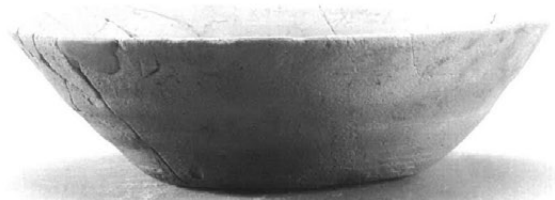
掘立柱建物跡(SB-52・53)写真



写真図版13 縄文時代前期～中期遺物



35



36



39



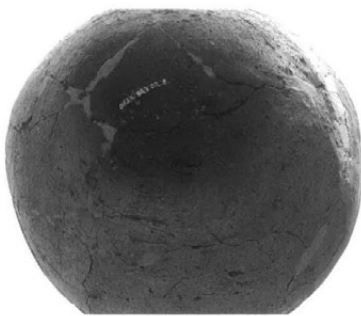
41



42



40



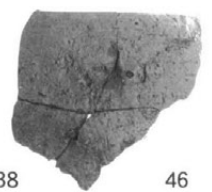
42 底部



37



38



46



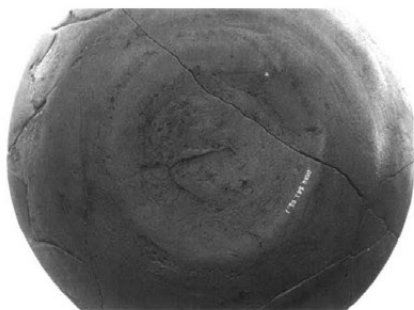
44



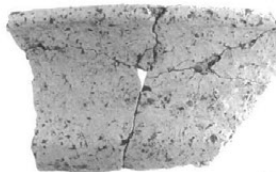
45



49



36 底部



47

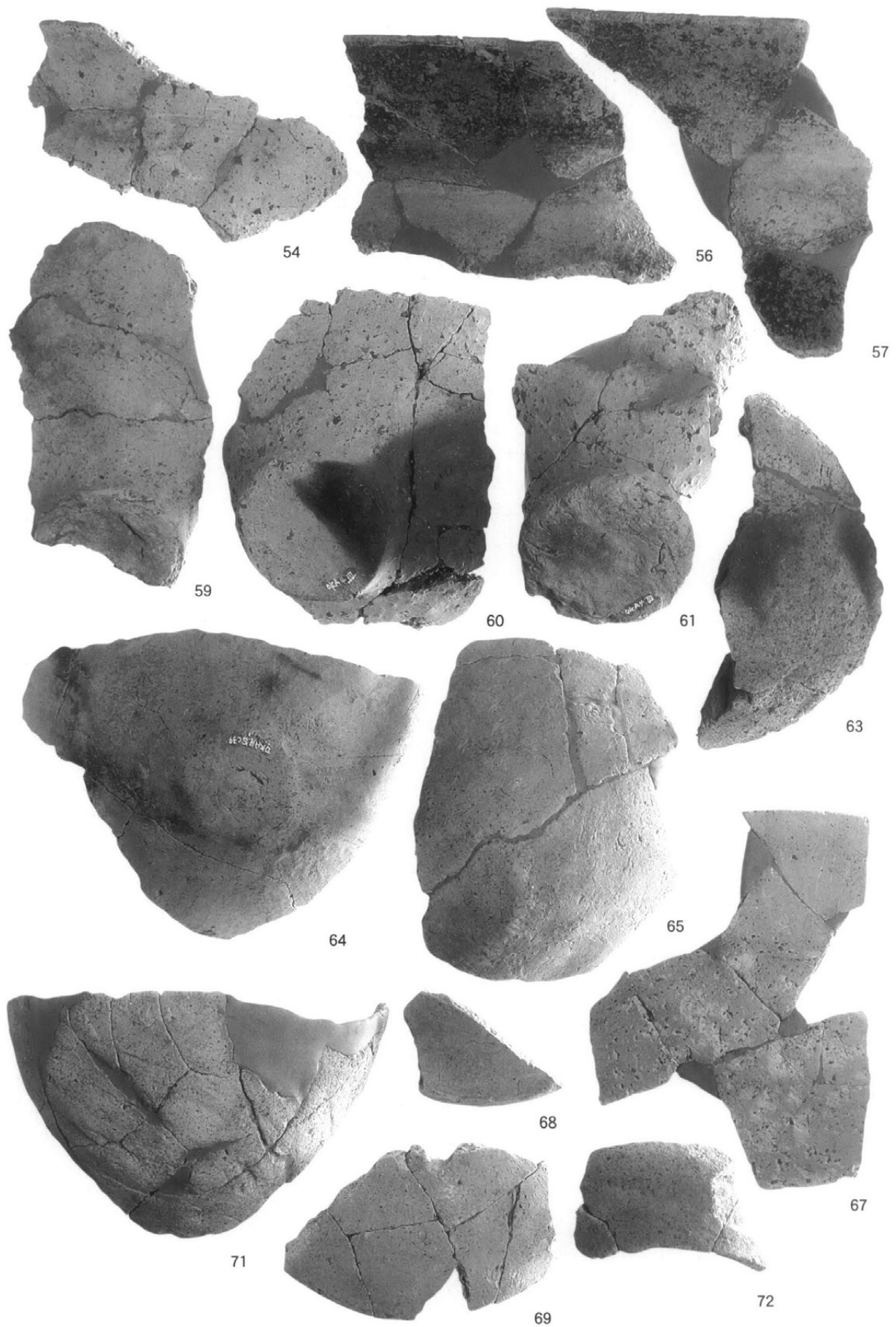


48



50

写真図版14 古代土師器 (SA-3出土土器)



写真図版15 古墳時代土師器



写真図版16 発掘調査参加者

第5章 おわりに

本町の調査事例の中では数少ない縄文時代中期の遺構と遺物、古代の竪穴住居跡が検出されたことなどが今回の発掘調査の主な成果である。また、本町にある船引地区遺跡群で大変調査事例の多い縄文早期の遺物包含層だが、本調査区のように別府原式土器がまとまって出土した調査事例はなく、船引地区遺跡群の様相と異なる縄文時代早期の事例が見つかったことも、今後の宮崎平野部の縄文早期の生活を研究して行く上で重要な成果であったと考えられる。

今回の調査成果を受けての課題としては、縄文早期の船引地区遺跡群との様相を比較すること、縄文中期の土坑群の性格の検討、SA-3から検出された粘土塊や出土した土師器の時期や性格の検討など他にも色々な課題があげられる。特に本書では満足に報告を行えなかった近世～近代にかけての掘立柱建物跡やそれに伴う遺物などを検討することによって、武家屋敷群があったといわれるものの不明瞭となっている岡地区の江戸時代の様相を少しでも解明しなければならなかったのだが、短い整理作業期間しか確保できなかったためにこれらの重要な課題を全く消化できなかったことを第一に反省している。

清武町は2010年3月23日に宮崎市との合併を控え、この岡第4遺跡の発掘調査が清武町教育委員会としての最後の発掘調査となりました。ここで今回の発掘調査においてお世話になった方々との思い出とお礼を述べさせていただきます。私が清武町に奉職して8年目をむかえましたが、今回初めて民間開発の調査を担当しました。民間会社との協議から報告書作成にいたるまでの事業を進める上で、宮崎県文化財課及び宮崎市文化財課の皆様にご教授をいただきました。また本調査は真夏の一番暑い時期から始まることとなり、発掘作業員さん達は大変だったことと思います。猛暑のため何名か作業中に具合が悪くなるものがあつたものの、事故もなく無事に本調査を終えることができました。整理作業員さん達は短い整理作業期間のために締め切りに追われる報告書作成となつてしまい迷惑をかけました。最後に岡地区の皆様には住宅地内の調査ということで色々迷惑をかけたのにも関わらず励まし等の声をかけていただきました。皆様どうもありがとうございました。

調査抄録

フリガナ	オカダイ 4 イセキ				
書名	岡第 4 遺跡				
副書名	民間開発にかかると埋蔵文化財調査報告書				
巻次	第 1 集				
シリーズ名	清武町埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第 3 1 集				
編集者名	秋成雅博				
発行機関	清武町教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地				
発行年月日	2010年2月				
発行年月日	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東経	調査期間
岡第 4 遺跡	清武町大字今泉字岡	清武町：319	31° 51' 00" (日本測地形)	131° 23' 10" (日本測地形)	2009. 8. 7～ 2009. 10. 30
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
1270m ²	民間開発	集落	旧石器 縄文(早期～中期) 古墳 古代 中世 近世	集石遺構 陥し穴 炉穴 竪穴住居 掘立柱建物 など	石器 縄文土器 土製品 土師器 陶磁器 など
特記事項					
縄文早期の土製円盤の出土・縄文中期の土坑群の検出事例					

清武町埋蔵文化財調査報告書 第31集

岡第4遺跡

民間開発に伴う埋蔵文化財調査報告書

発行年月日 平成22年2月26日

編集発行 清武町教育委員会

〒889-1696 宮崎県宮崎郡清武町大字船引204

TEL 0985-85-1111

印刷 有限会社 いろは企画

〒889-1603 宮崎県宮崎郡清武町正手3丁目19-2

TEL 0985-85-5889
